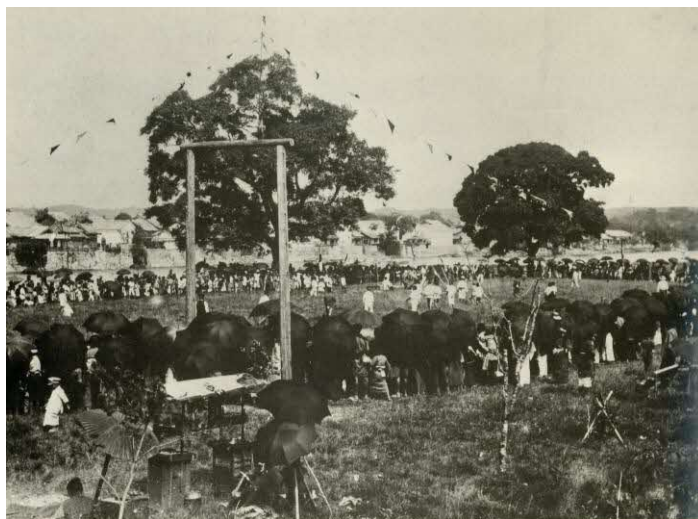


中川原公園の以前の風景

明治39年／人吉・中川原での運動会



明治39年10月1日、球磨川の中川原で開かれた人吉高等小学校の運動会風景。そのころ中川原では競馬や各種の催し物も行われており、市民にとって憩いの遊園地であった。

【絵葉書】肥後 人吉中川原公園の朝



昭和初期／中州橋



球磨川の中央の中州を中川原といい、大橋と小俣橋があり、橋は中川原で二つに分かれていた。それを昭和の初期にこの橋によって接続させ、便利になった。むかって右下の家は公会堂（武徳殿兼用）で、正面に見える洋風の建物は警察署、その先が札の辻である。幕末にはここに御客屋があり、明治には郡役所となり、警察署に改築された。写真は昭和初期のもの。

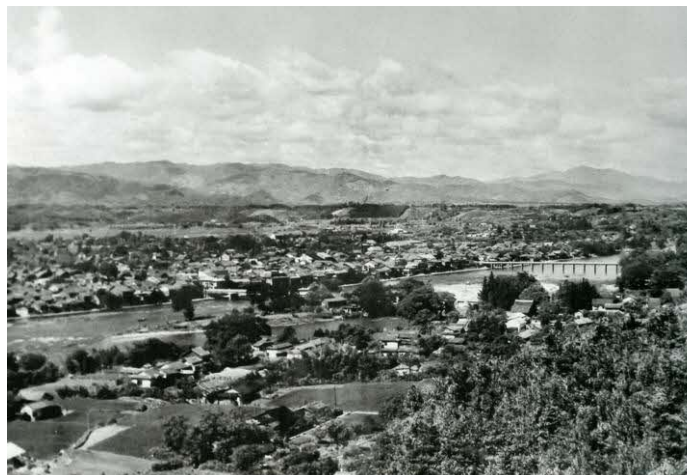
「ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和 人吉」所収

新装なれる人吉大橋



橋大吉人るれな装新

昭和24年頃／球磨川右岸の人吉市内を望む



「球磨・人吉の昭和」所収

昭和34年／賑わう中川原公園



「球磨・人吉の昭和」所収

○地元市民・事業者の声

○使われ方

- ・中川原公園は日常の憩いの場所であった。大事にしたい。
- ・夏季だけではなく冬季も一年中日常的に人がいるような工夫をしてほしい。
- ・中川原公園の週末利用が多かった。自分もBBQをやっていた。
- ・キッチンカーやテントサウナなど公園でもっと商売できる環境を作ってほしい。
- ・中川原公園は夕日がすごくきれいなため、夕日を見ながらのんびりできるとか、観光客も来てもらうようなことになればよい。自然をメインにした場所にするしかないか。
- ・中川原公園と城跡公園を一体とした景観の維持をしてほしい。
- ・日影は必要。東屋など。
- ・市外の方は、主に魚釣りとキャンプをしていた。
- ・中川原公園で遠足もやっていた。
- ・かつてはおくんち祭りの際に中川原公園で御旅所をやっていた。
- ・中川原公園は、業務用の車の搬入搬出を可能とし、一般の方は徒歩のみといった運用にすると良いだろう。
- ・中川原公園に下りると下から旅館街を見上げる感じがよい。西側への眺望も多い。
- ・中川原公園はベンチを設置するだけなど何もいらない。素朴な感じがいい。
- ・イベントはいらない散歩やジョギング等の日常使いだけでよい。
- ・イベントはふるさと歴史の広場でやってほしい。
- ・増水を考慮した利用規制や整備維持管理を検討してほしい。
- ・利用者のマナーが悪いため、管理人がほしい。
- ・以前中川原にあり移設されている左近の石を活用できないか。

○アクティビティ

- ・あゆの築場を一度やったが、うまくいかなかったため、またやりたい。川に親しみを持ってもらう取り組みとしてよい。
- ・後継者育成も兼ねて、投網教室ができるとよい。
- ・中川原公園は水量によっては球磨川くだりの船を着けられる。
- ・BBQの利用申請していない人も多かった。利用の一元化を進めた方がいいのではないか。

○トイレ

- ・トイレは中川原公園の中に作らなくてもよい。鳥越商店のトイレを公共で借り上げて利用しやすくする、北側駐車場のトイレをリニューアルするなど両側できるとよい。
- ・トイレは設置ができないと厳しい。トイレがあるかどうかで利用の範囲が変わってくる。
- ・トイレや駐車場は橋の下のような景観を阻害しない場所に設置してほしい。

○参考イメージ

[中川原リバーベース]

- ・公園＆川遊びの窓口・・・使っていい＆入っていい場所
- ・キオスク（飲み物、アクティビティグッズ販売＆レンタル）



【参考】左近の石

重さ31トン、石周り10.83m、高さ2.19mの巨大な岩は、昭和43年の球磨川の河川改修工事の際に人吉城跡内に移設。慶長12（1607）に中洲の中川原（大岩瀬）を挟んで大俣橋、小俣橋が架けられた。しかし、中洲を橋台としていたために増水で橋が壊れることが多く、人吉藩家老の村上左近の進言によって中洲の上流部の先端に大岩を多数沈めて中洲が流出しないようにしたという。



中川原公園の年間を通じた使いこなし！ルール・民間運営・ハード改善への社会実験

つかいこなし [テーマ×シーン]

・中川原公園のつかいこなし方を、テーマとシーンを想定して企画する。

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| I : 飲食・散歩・体操 | i : 日常 |
| II : アクティブ・水遊び | × ii : 日常+α (月1回など定期開催) |
| III : 学び・自然・アート | iii : 非日常 |
| IV : マーケット・フェス | |

※今後アイデア・主体を増やしていく

[参考イメージ]

中川原ネイチャーライブラリー



©ONE RIVER

中川原ピクニック



中川原水辺BBQ



中川原お月見



©ONE RIVER

中川原キャンプ



©ONE RIVER

中川原薪割り体験



©ONE RIVER

中川原ナイトマーケット



©ONE RIVER

中川原シネマフェス



中川原アートプログラム



○参考イメージ

別紙 報道資料

昼も夜も、球磨川&人吉の街で遊びつくそう

FUN!

くま川・ひとよし

人吉地区
かわまちづくり
社会実験

かわまちづくりとは
地域が持つ「資源」や地域の
創意に裏打ち「知恵」を活かし、
市町村や民間事業者、地域住
民と河川管理者が連携の下、
「河川空間」と「まち空間」が
融合した良好な空間形成を目
指す取組です。

入場自由
有料イベントあり

※イベント情報は
随時、公式HPで
更新中!

QR
Code

日時 **2023.5.13(土)**
11:00-19:00

※催しにより開閉時間異なります。QRコードから最新情報をご確認ください。
雨天決行 ※状況により一部変更の可能性があります。

会場 **中川原公園～人吉市街地一帯**

主催 球磨川・人吉地区かわまちづくり社会実験実行委員会
球磨川・人吉地区かわまちづくり協議会
球磨川・人吉地区かわまちづくり実行委員会

問合せ 球磨川・人吉地区かわまちづくり社会実験実行委員会 事務局
国土交通省 八代河川国道事務所 調査課 ☎0965-32-4135
人吉市役所 復興支援課 ☎0966-22-2111

今後の賑わいづくりの参考のため、アンケートを実施予定です。ご協力をよろしくお願いします。

球磨川・人吉地区かわまちづくり社会実験「FUN! くま川・ひとよし」 【中川原公園～人吉市街地】 令和5年5月13日(土) 11:00～19:00

FUN! くま川・ひとよし EVENT MAP

人吉温泉旅館宿泊優待券
(2万円分)を抽選で
2名様にプレゼント!
アンケートに回答して応募券をGETしてね。
さらに、ウォークラリーに参加すると
応募券が2枚もらえますよ

ウォークラリー
本部・中川原公園・HASSENBA
にあるウォーキングMAPをゲットして
会場内をウォーキングしよう!
※ウォーキングMAPは公式HPでも
ご覧いただけます

ガーランド作成
復興の思いをガーランドに
のせて、完成したガーランド
は中川原公園に展示します。

球磨焼酎フェス
球磨焼酎の蔵元が大集結!
ご当地焼酎の飲み比べをぜひ

**HITONOWA
マーケット**
キッチンカーや特産品販売、
軽食、ドリンクなど人吉・球磨
グルメが思う存分楽しめる!

**水辺のテーブル&
キッチンカー**
球磨川の絶景を楽しみながら
食べて飲んで過ごして

越見遊園
スノーピークのテントを設置して
います。キャンプに趣味のある
人はぜひ見に来てください!

球磨川くんだり
清流と島のさえずりに包まれて
木船でゆったり、極楽気分

球磨川屋形船
夕暮れ時の球磨川は魅惑的
&ロマンチック

ラフティング
日本三急流・球磨川を
豪快にスリリングに体験

SUP
大きなサーフボードでバランス
を取りつつ水上ツーリング

Eボート
10人乗りのゴンドラ型カヌーで
力合わせて滑り出そう

夜のライトアップ
水の手橋や人吉城跡、中川原公園の
美しい夜景は必見

水鉄砲大会
温泉水を使用した水鉄砲大会。
大人も子どももうちまくれ!

川の水遊び
安全な水遊びを字んで体験
※子ども対象

ガーランド作成
復興の思いをのせたガーランド
が中川原公園を彩ります

ボート展示
ラフティングボートを
展示しています

テントサウナ
球磨川の絶景を見ながら
極上のサウナ体験を

フェリス球磨川
インスタフレームを使って球磨川と
ステキな一枚を!

イスタス文明
イスやハンモックを設置しています。
ゆっくり球磨川を愛でてください。

復興まちづくり
復興まちづくりの取組を紹介
アンケートに答えるとガチャがでますよ!

**エモーション
まちづくりかわまち**
かわまちづくりの取組を紹介
オリジナル缶バッジが作れます!

応募券回収箱

青井阿蘇神社
山田川
人吉大橋
中川原公園
人吉城跡
球磨川
水の手橋
城見庭園
HASSENBA
ふるさと歴史の広場
人吉駅
まちなかエリア
本部
人吉大橋
がわまちエリア
球磨川
HASSENBAエリア

歩行者天国は10:00～20:00の間、車両通行止めになります。
中川原公園は整備中のため、5月13日のイベント当日のみ開放します。

※天候等により一部変更または中止の可能性があります。

詳細はこちら⇒

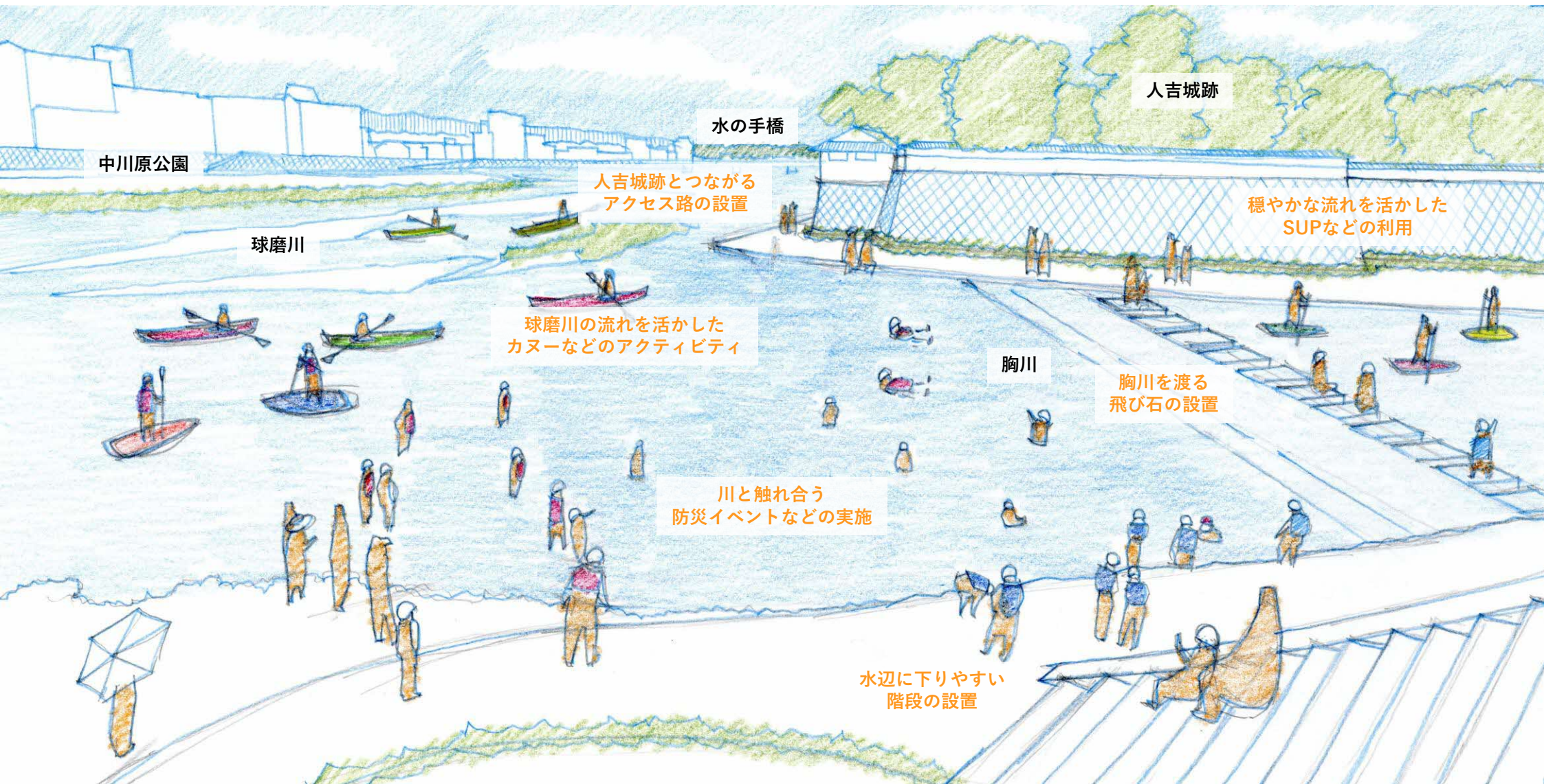
QRコード



- ・胸川下流付近を「**川遊びの拠点**」として川と触れ合い様々な水辺の活動ができる親水空間をつくりまします。

- ・飛び石や城跡からのアクセス路、階段等を設置して球磨川上下流のアクセス性向上と水辺の活動を促します。

[胸川のイメージ]



あかりのキーワード

球磨川水辺を魅せるあかり

[胸川の夜間景観イメージ]

中川原・旅館のあかりが借景となる



隅櫓・多聞櫓ライトアップ

樹木ライトアップ

- ①そぞろ歩きのできる胸川水辺の創出
- ②眺められる美しい人吉城跡と水辺の風景

高水敷遊歩道の明るさは
道路照明（スポットライトポール）
より投光

飛び石 もしくは 河川域風景の演出は
道路照明（スポットライトポール）より投光



○地元市民・事業者の声

○使われ方

- ・小さい子どもが遊べる親水空間（かつてあったプールのようなイメージ）
- ・小さい頃胸川で泳いでいた。国交省と話して、川でプールをやったり、ウォータースライダーなどもやっていた。

○周辺との連動

- ・中川原公園との連携が必要。
- ・人吉城跡、中心市街地、中川原をつなぐ結節点として活用。

○胸川左岸の通り

- ・雰囲気ある景観の活用。

○参考イメージ



[左：胸川沿いの道路現況]

[下：川沿いの景観に配慮した通り：長門湯本温泉]

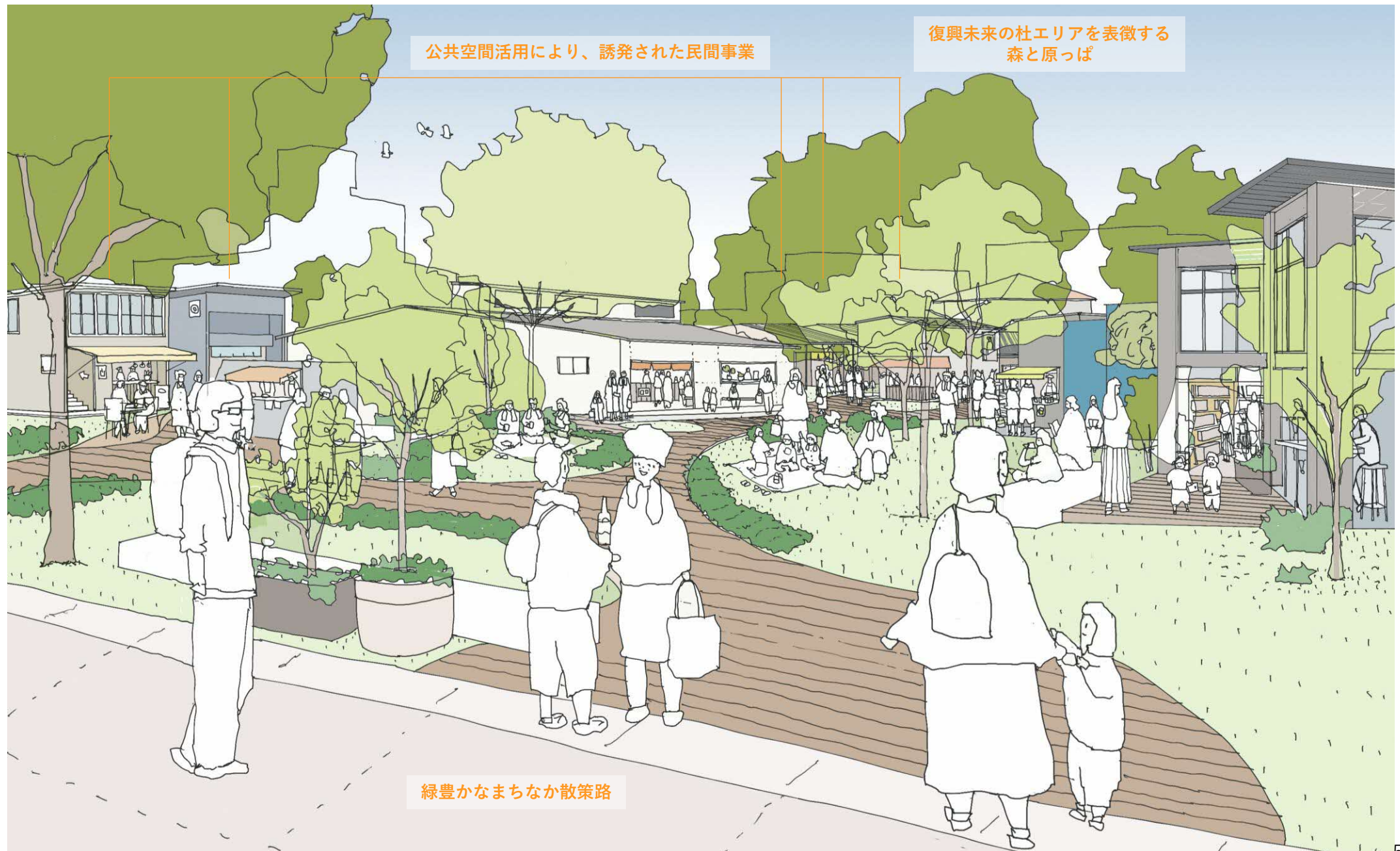


[社会実験「川の安全教室」の様子：2024年7月]



人と人、人とまちがにつながる交流拠点

- ・市民の日常の居場所に、また来街者の人吉球磨エリアの体験の入口となる場所をつくります。
また点在する未利用地を活用して、緑化や暫定活用を行うことにより、まちなかの価値を維持し将来の投資につなげます。



■ 中心市街地地区のストーリー

空き地・空き店舗・空き家等の未利用地の増加による活気の低下が課題となっていることから、水害リスクが低減されるまでの一定期間、中心市街地のエリア価値を損なわないよう、低未利用地を活用して、中心市街地の魅力と価値を維持、高める事業を公民連携で推進します。



▼ 空き地が増え、街なかの魅力が低下。現状のままでは活気が失われ、さらに空き地が増え、帰還率が低下し続けかねず、人が戻ってこない、観光地としての魅力も低下してしまう。

● 連なっている空き地を心地よく美しいウォーカブルな緑道にすることでまちの風景が変わり、観光客にとってもまち歩きが楽しくなる。

▲ 豊かな環境と景観の周辺に 居住や出店ニーズが生まれ、民間の投資意欲につながる。

車中心の東西軸である国道445号と紺屋町通りの間に、人中心のウォーカブルな「GREEN MALL」ができ、さらに山田川・球磨川とつながり回遊を生み出す。



■ 中心市街地地区のストーリー

うぐいす温泉周辺は、GREEN MALLの中心に位置するリーディングプロジェクトとして
公共空間（広場・交流施設）として活用



STEP 01 | 社会実験 ⇒ 計画 ⇒ 整備 ⇒ 供用

① 心豊かな暮らしを支える居心地のよい場所となる

工夫次第で多種多様な過ごし方や活動、使い方ができる居心地の良い場所のイメージを共有する。

② 人と人とのリアルな交流、新しい価値を生み出す場となる

居心地のよい空間が、多様な人々の出会い・交流を生み、まちなかに新たな風景が生まれる。

③ 活動実践の場となる

地域の方々や市民に開かれた環境によって、「やりたい」ができる活動実践の場となり、その活動の風景がまちを元気にしてくれる。

④ 機動的なまちづくりの核となる

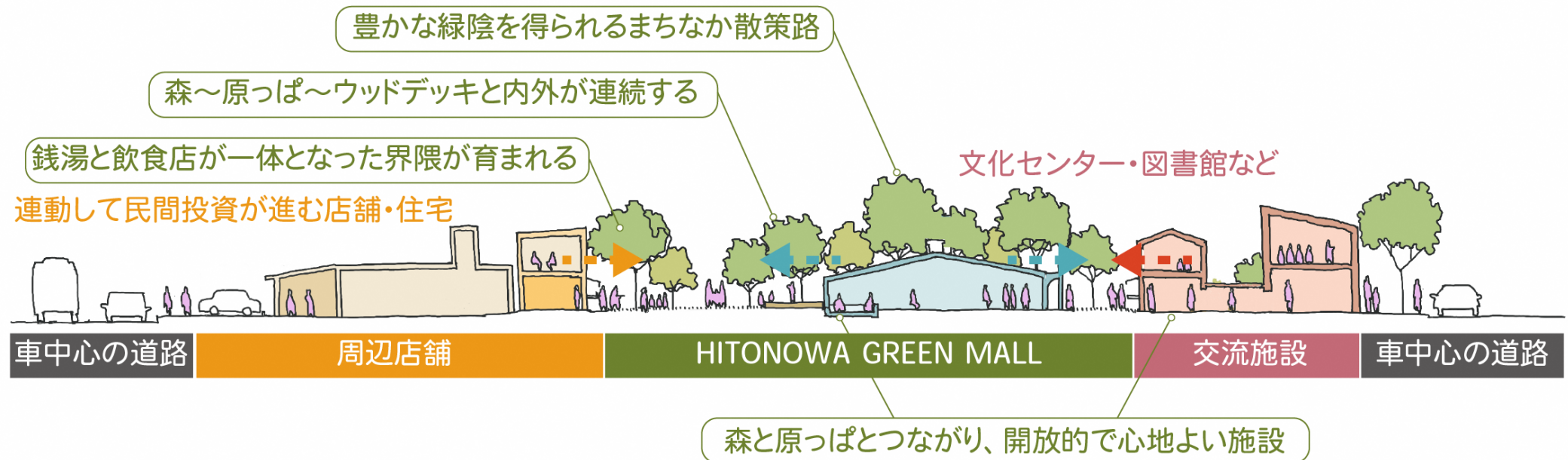
社会実験の実施による計画案の検証・設計・整備のプロセスを迅速に進めながら民間のアイデアで柔軟な運営を可能にする公民連携の運営スキームを検討し、機動的なまちづくりを進めるための拠点として、地域の魅力と価値を向上させる。

⑤ 中川原をはじめ、周辺エリアと連携した情報発信拠点のひとつとしての役割を果たす

日常を豊かにするマイプレイスとしてのうぐいす温泉周辺で「食」「歴史・文化」「活動」など、様々な情報を発信することで、地域の方々や市民は、より自分たちのまちのことを知り、観光客は地元の方々との交流や発見によって人吉ローカルの魅力をより深く知るためにまちを巡る。シェアサイクルなどのスモールモビリティを積極的に活用した、ローカルツーリズムのコンシェルジュとしての機能をいれることによって、周辺エリアとの連携も強化される。

STEP 02 | 周辺への波及

- ⑥ 豊かな公共空間（GREEN MALL）に隣接した遊休不動産の利活用動機が生まれ、店舗や住宅ができることで。歩いて楽しめる中心市街地エリアが形成される



■社会実験「HITONOWA GREEN UGUISU」

人仮設植栽と人とがつながり、人とまちがつながる緑豊かな中心市街地の「交流・文化の場」

人工芝、アウトドアファニチャーで設え、まちなかの「ちょっとイイ日常風景」をつくることで来街・滞在動機の誘発と将来整備の在り方を検証。



「昼も夜も、心地よく。」

緑の空間を魅せるあかりと主要動線の照明改善により、安全安心で、心地よい夜の風景をつくる。



○地元市民・事業者の声

○将来イメージ

- ・うぐいす温泉を公衆温泉として再生でると嬉しい。まちなかからは公衆浴場は遠く、立ち寄り湯やサウナなど、気軽に入れる温泉が必要。
- ・足湯でもよいので、温泉町であることが感じられる場所があるとよい。
- ・ベンチのある憩いの場がほしい。
- ・中心市街地には町内会館などがなく、集まる時は困っている。中心市街地で集まれる場としても利用できるような整備を期待している。
- ・うぐいす温泉を使って、外から来た人にまずお風呂に入ってもらい、人吉の人に会ってもらう。または、誰にあったら良いとの情報をそこで手に入れられるようにする、そこにシェアハウスや案内所のようなものを併設させる、そこから人吉球磨エリアに行ってもらおうといった場所にする。

○計画案について

- ・芝生があるだけでまちの雰囲気が明るくなる。
- ・家から良い風景が見れたら嬉しい。計画のような空間があれば、観光客も立ち寄れると思う。
- ・昔、うぐいす温泉にかけて小道があり家からすぐに温泉に入ることができた。小路や路地で回遊できるのはよい。
- ・緑の杜は大賛成。うぐいす温泉の周りは四方向に抜け道があった。ちょっと入ってみたいくなるような良い雰囲気の小径をつくってほしい。
- ・計画案のような空間ができるのであれば、うちの建物も利活用して商売などができたらよいが・・・。
- ・整備されて、うちの土地を使ってまちのためになることにをやってくれるのであれば借地や売ることも考える。
- ・整備されたら駐車場が必要になると思う。市の駐車場は観光客には分かりづらい位置なので、わかりやすく近い場所に駐車場が必要。

○参考イメージ



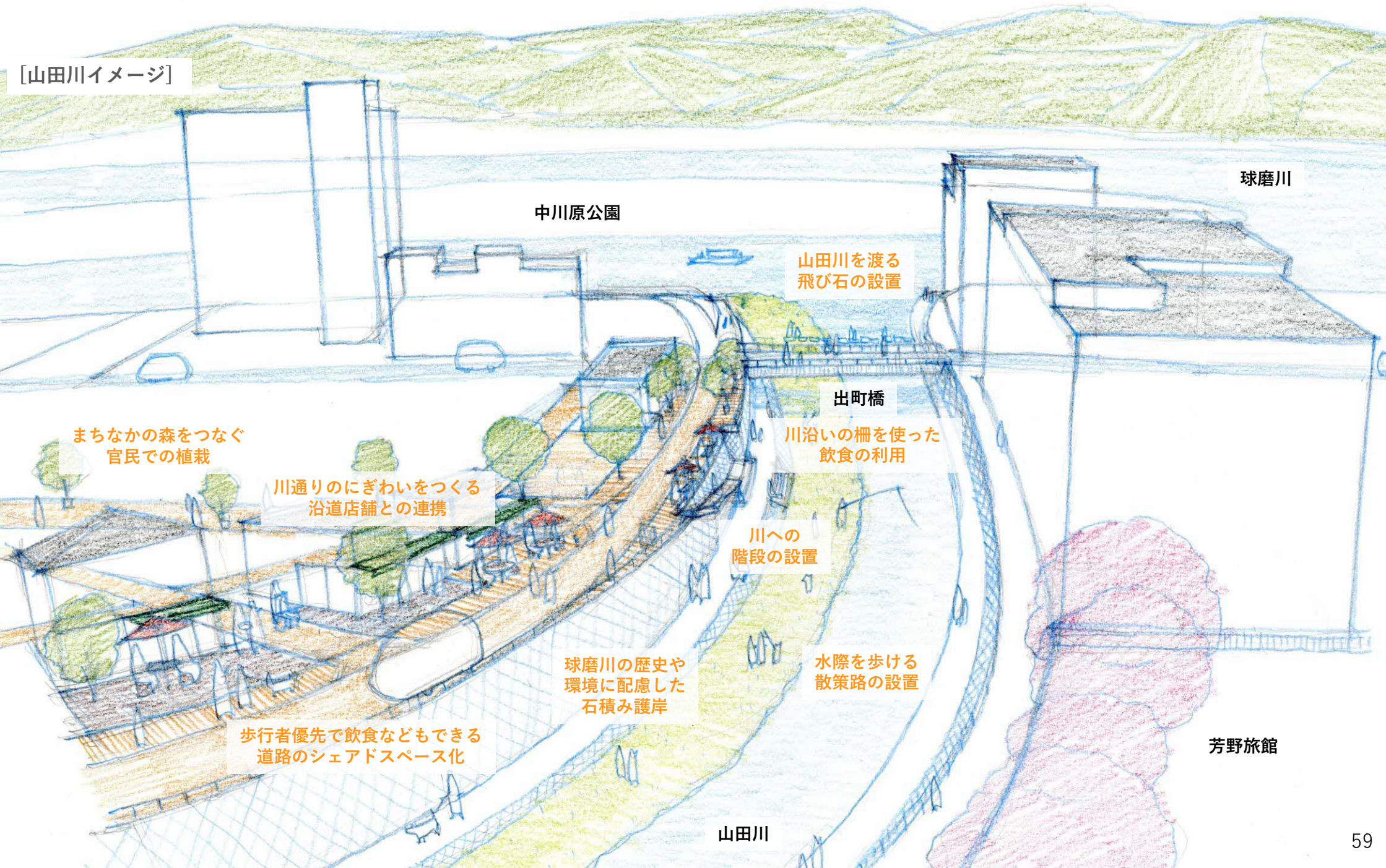
※写真

① ツバメアーキテクト

③ ④ Coffee.TO. _____

- ・山田川護岸整備に伴い、まちと水辺をつなぐ階段やスロープを新たに設け、川へのアクセス性を向上させます。

- ・川沿いは歩車共存のシェアスペースとすることで、歩きやすく、川を眺められる場所とします。



あかりのキーワード

誰もが夜散歩を始めてしまうような水辺

[山田川の夜間景観イメージ]

- ①散歩が楽しくなる道路空間の創出（建物からの漏れ光も含む）
- ②河川内遊歩道の夜間の安全安心の確保
- ③飛び石や橋は、眺めても渡っても心地よい
- ④紺屋町道路空間の夜間景観改善



街路照明（下方配光）

樹木ライトアップ

ベンチ下照明

護岸上道路からの
スポットライトポールによる投光

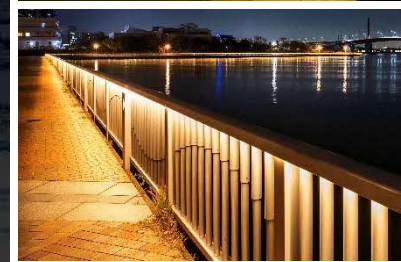


高欄手すり間接照明

手すり間接照明

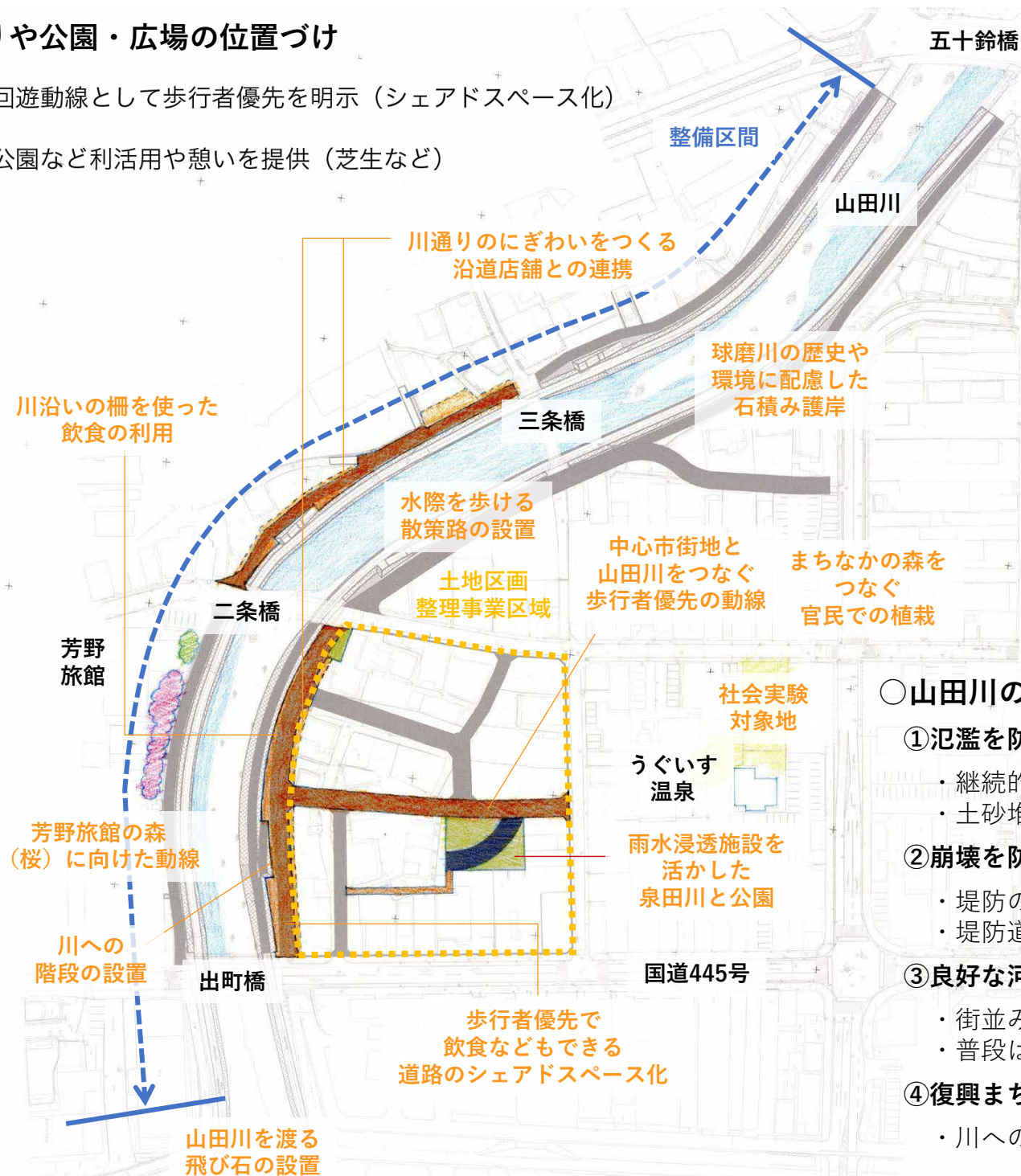
桜ライトアップ
（民間）

手すり間接照明によって
道路及び高水敷遊歩道の
明るさを確保



○通りや公園・広場の位置づけ

- 回遊動線として歩行者優先を明示（シェアドスペース化）
- 公園など利活用や憩いを提供（芝生など）



○山田川の河川整備のポイント

①氾濫を防ぐ対策

- ・継続的に土砂撤去を行うための低水通路の整備
- ・土砂堆積を軽減させるための横断形状の工夫

②崩壊を防ぐ対策

- ・堤防の幅を確保し構造を強化
- ・堤防道路を避難路・水防活動の場として活用

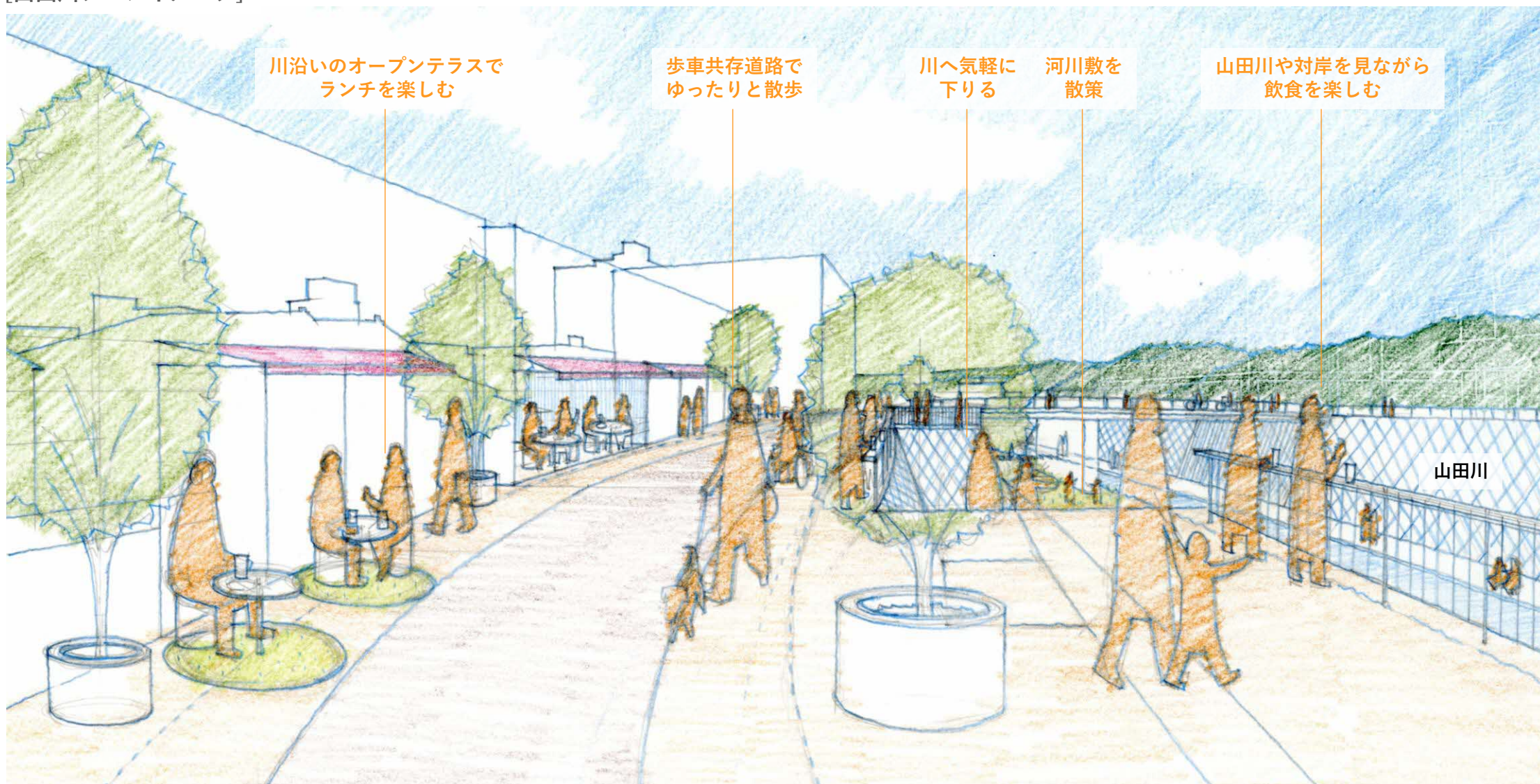
③良好な河川空間の形成

- ・街並み・景観に配慮した石積み等
- ・普段は低水通路を散策路として活用

④復興まちづくりとの連携

- ・川へのアクセスを確保しまちづくりと一体となった整備

[山田川シーンイメージ]



○地元市民・事業者の声

○山田川・川沿い

- ・飛び石を付けてほしい。
- ・山田川の下に降りて散策できるとよい。
- ・山田川沿いにオープンスペースやテラスがある。
- ・山田川を夜楽しめるように、集まって集うような場所になってほしい。
- ・川沿いのブランコ等インスタ映えするもの。
- ・芳野旅館が見える景色、駅から紺屋町に来る景観、青井阿蘇神社に繋がる道も大事にしていけないといけない。

○公園

- ・くぼんだ公園が楽しく草花が生え時々水が流れるビオトープのようなデザイン。
- ・子供達が川へ裸足で入り植物を採取したり観察したりできる公園。
- ・雨が浸透する芝。

○まちの回遊

- ・中高校生が歩けるまちなか。
- ・ウォーカブルな緑道。
- ・安心感があり街を回遊できる。
- ・鶯温泉の周りに四方へ抜けれる小道。

○中心市街地

- ・中心市街地の昔の姿（商売の街等）。・家から良い風景が見えたら嬉しい。
- ・下北沢ボーナストラックのようなおしゃれな雰囲気。
- ・緑が多く自然を感じられるおしゃれなカフェ等。
- ・毎週マーケットやマルシェがある。
- ・昔は仕事やご飯を食べにくる場所だった。
- ・四季を考慮したどんな気候でも過ごせる場所。
- ・夜も安全な環境。・長期滞在につながる場所。
- ・まちなかに子供達の教育や遊べる場所。
- ・中心市街地に駐車場。
- ・中心市街地で集まれるコミュニティセンター。
- ・市民会館のようなコンサートやイベントができる施設。
- ・学生や会社員が勉強、仕事、休憩できる普段利用しやすい施設
- ・図書館や文化を感じられる場所。
- ・足湯だけでも温泉が活用できたらよい。
- ・大屋根の施設。・スケートボードや体を動かす施設。
- ・気軽に温泉やサウナに入れる場所
- ・国道445号の交通量が多いため、他の道路沿いに店舗が並ぶ。
- ・住民に寄り添う日常を基盤とした街
- ・地元の方や観光客が集まってゆっくりできる場所

○参考イメージ

[雨水浸透施設：ポートランド・タナーパーク]



- ・住民協定により守られてきた街並みを今後も維持し、道路は破損した石畳舗装の修復を行います。

- ・町人地の趣やなりわい、ウンスンカルタやお茶、味噌蔵などの文化的な営みを活かしたまちづくりを進めます。

[鍛冶屋町通りのイメージ]



あかりのキーワード

鍛冶屋町らしさの獲得

◆情緒的な石畳の界隈としての鍛冶屋町通り

【鍛冶屋町通りの夜間景観イメージ】

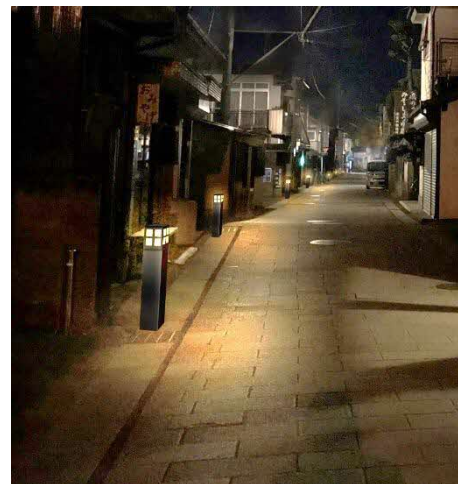


オリジナル提灯（案）

通りとしての景観を強化するために、日中にも効果のあるおそろいの提灯を常設する
（住民WS～社会実験実装・電気代民間）



12号縦型
H610,W340



暗さの払しょくには、排水溝暗渠を利用して低ポール灯を設置する方法もある。

夜間のそぞろ歩きの創出【駅～紺屋町～鍛冶屋町】と継続

◆夏目友人帳影絵・駅からつながる物語のフィニッシュ地点



人吉市街地内に全9ヶ所の夏目友人帳影絵が点灯中



©緑川ゆき・白泉社／「夏目友人帳」製作委員会

人吉駅

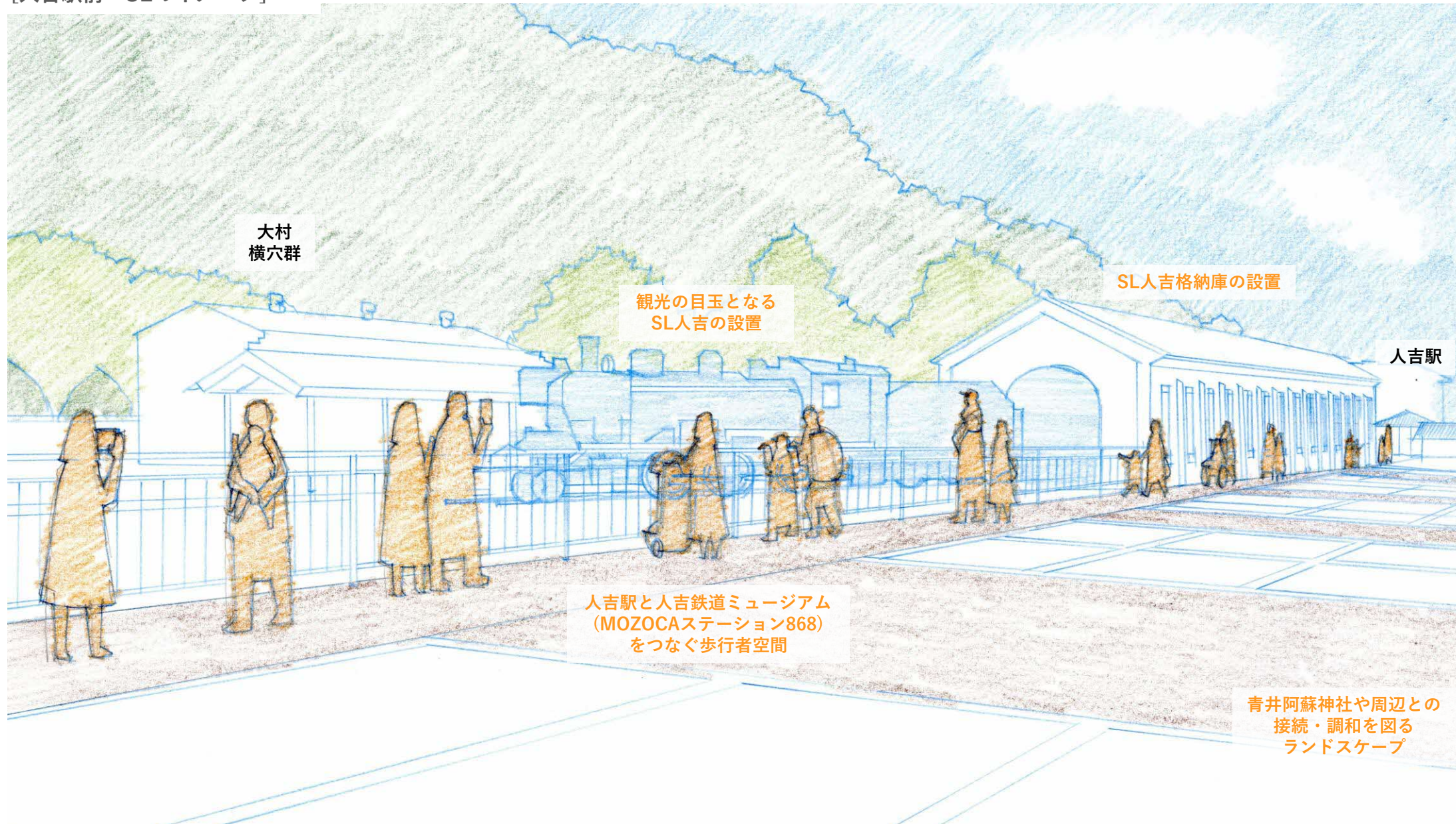
○地元市民・事業者の声

- ・街並み景観を守るための運動を続けており、住民協定は100％で継続している。街なみ環境整備事業を活用して建物修景や石畳化や公園整備などができており、10年過ぎても延長している。高い評価を得ている。
- ・妖怪まつりのときも、住民が団結してみんな協力している。水害の復興は市内トップクラスで、つながりがあるところは復興も速い。大学生といっしょに妖怪まつりを行っている。地域の文化を守る活動。
- ・文化を活かしたまちづくりを進めたい。まちなみを歩いた際に住民と話して自然と伝わるような感じが良い。
- ・鍛冶屋町通りは、石畳だがいくつか舗装石が剥がれていて歩きにくい。修繕できないか。もう少しお店が増えればよい。

・SL人吉の動態展示を契機として、くま川鉄道や沿線全体の活性化の起爆剤になるような取り組みを進めます。

・将来の肥薩線の復旧も見据え、駅舎・駅前広場・SL・鉄道ミュージアム・大村横穴群など、駅周辺を一体的に再編成します。

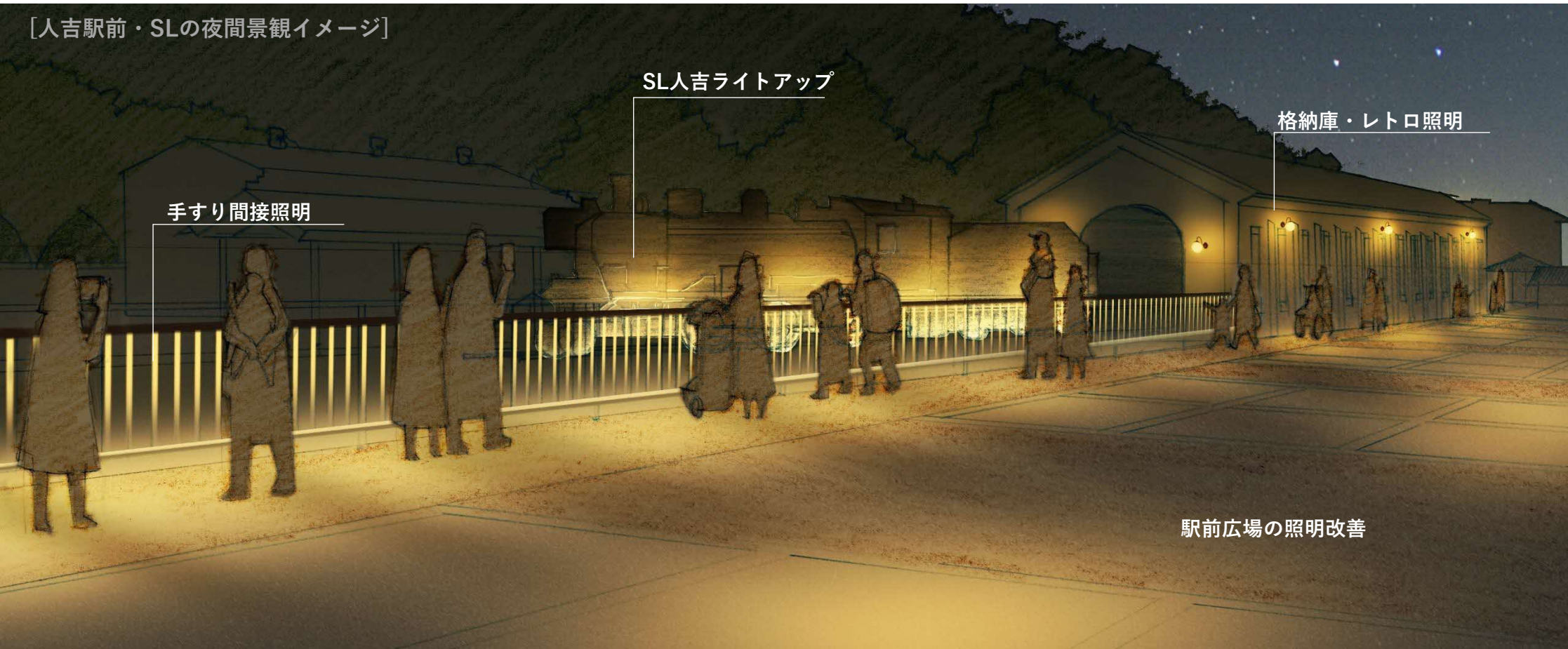
[人吉駅前・SLのイメージ]



あかりのキーワード

SL人吉を魅せ、駅前を寂しくない場所に進化させよう

[人吉駅前・SLの夜間景観イメージ]



- ①SL人吉を魅力的なランドマークとして演出する
- ②SL人吉設置に伴う駅前広場の魅力化と安全安心の確保

○地元市民・事業者の声

○SL人吉

- ・SL人吉が引退したら人吉市へ帰ってきてほしい。
- ・SLは観光の目玉になる。動態化となれば九州唯一となる。
- ・駅構内に置けないのか。
- ・屋根を作してほしい。大事に保存してほしい。
- ・SLはもう動かないのか。
- ・ボランティア清掃に協力したい。
- ・SL人吉の譲渡を機にいろいろと協力したい。
- ・肥薩線／くま川鉄道で走らせてほしい。
- ・保存会を早く立ち上げてほしい。
- ・SLとMOZOCAステーションをセットで考えたほうがよい。

○駅前

- ・駅前はほぼテナント埋まっている。5年前も今も変わっていない。事務系の会社が多いため、住みよいところなのかもしれない。

[現況：人吉鉄道ミュージアムから人吉駅側を見る]



○参考イメージ

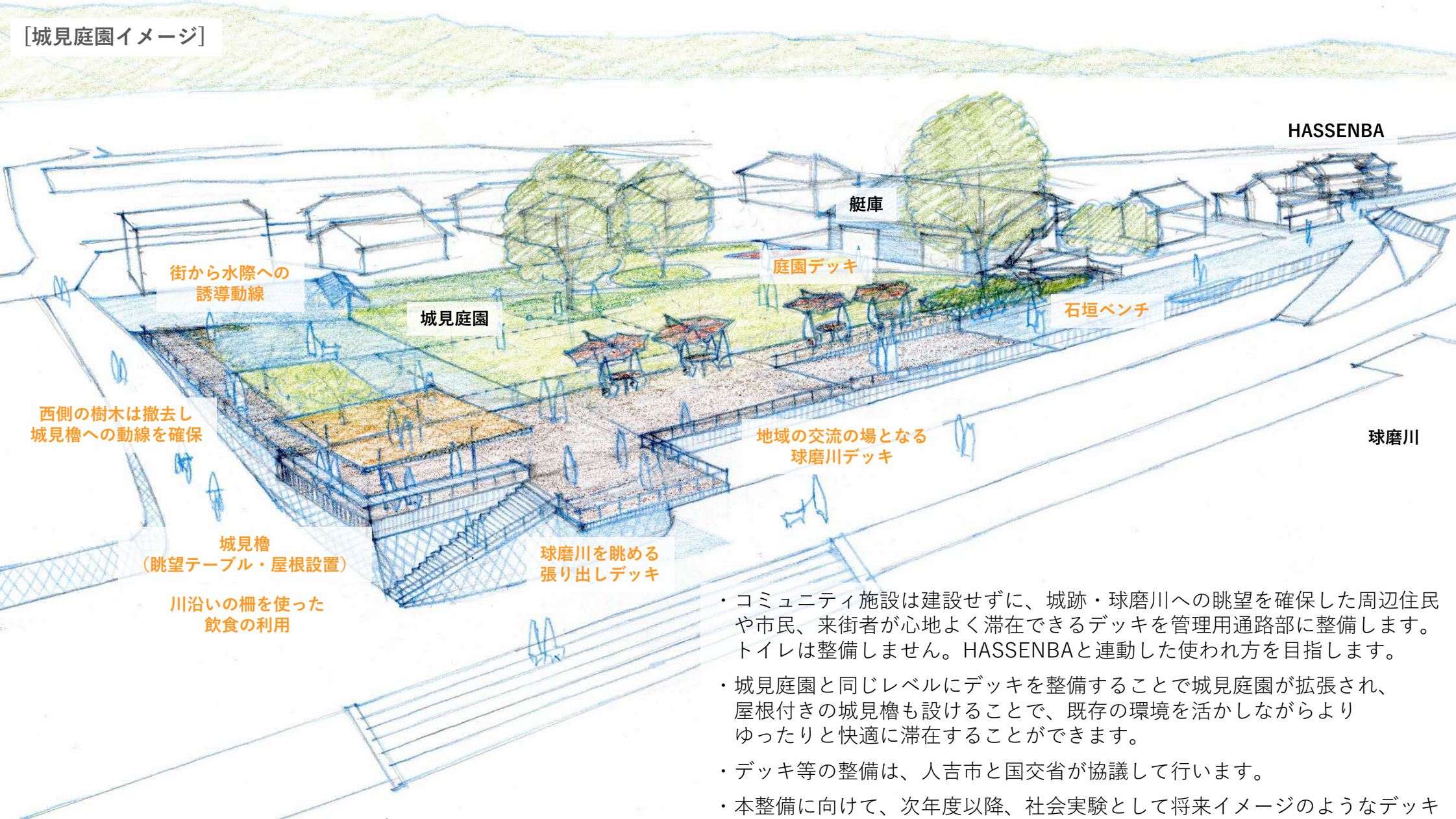


格納庫イメージ（矢岳展示館）

- ・周辺住民やカヌー部高校生などによる地域活動や交流が生まれ、HASSENBAともつながる場所とします。

- ・川沿いをテラス化して、人吉城跡や球磨川の眺望スポットをつくります。

[城見庭園イメージ]

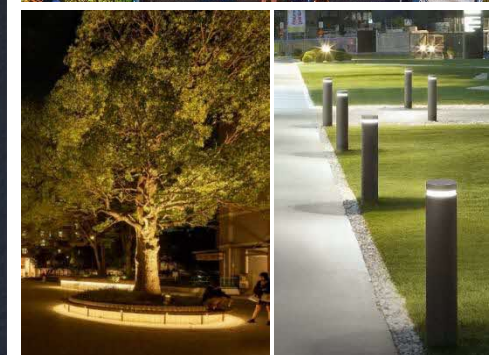
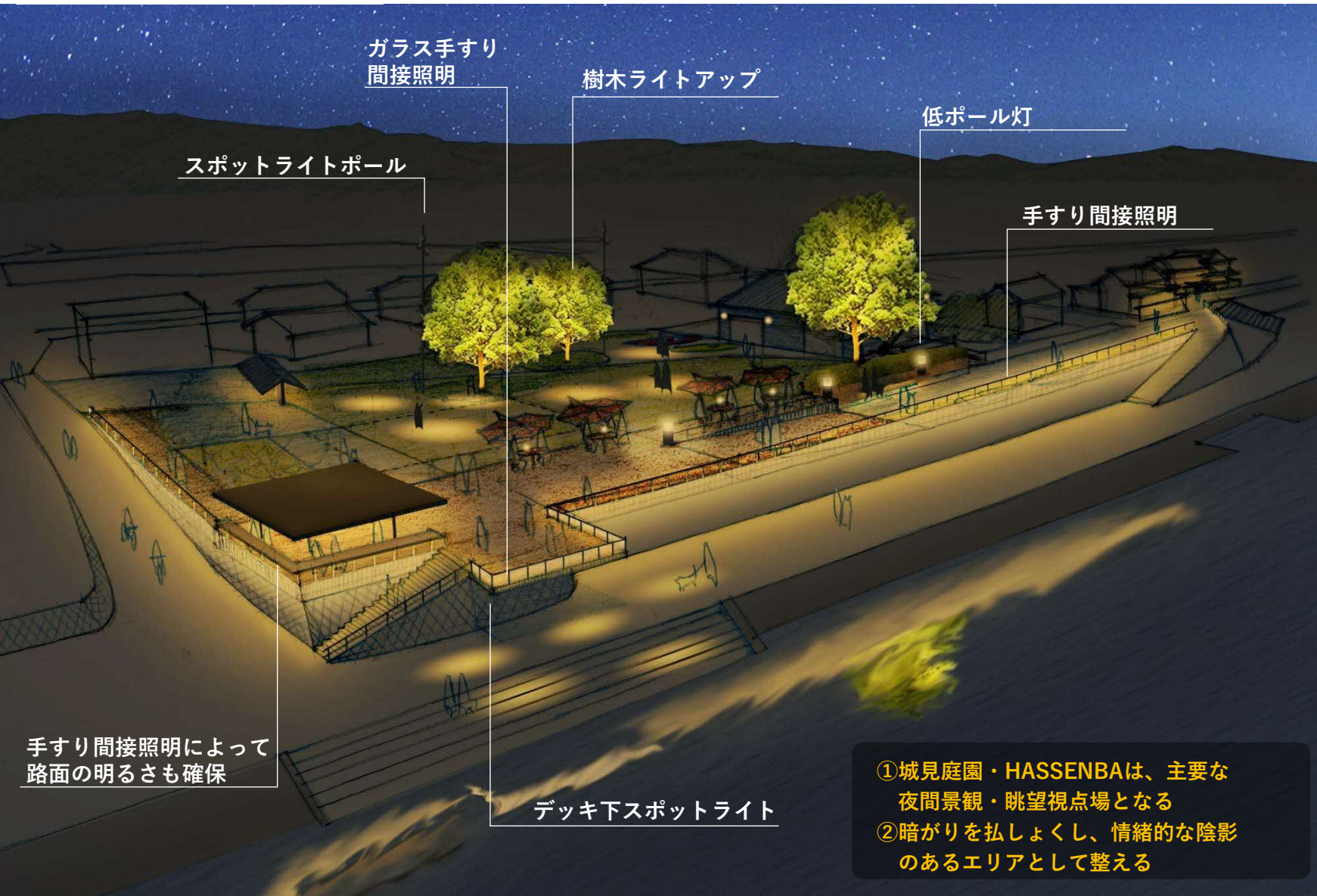


- ・コミュニティ施設は建設せずに、城跡・球磨川への眺望を確保した周辺住民や市民、来街者が心地よく滞在できるデッキを管理用通路部に整備します。トイレは整備しません。HASSENBAと連動した使われ方を目指します。
- ・城見庭園と同じレベルにデッキを整備することで城見庭園が拡張され、屋根付きの城見櫓も設けることで、既存の環境を活かしながらよりゆったりと快適に滞在することができます。
- ・デッキ等の整備は、人吉市と国交省が協議して行います。
- ・本整備に向けて、次年度以降、社会実験として将来イメージのようなデッキ等を設け、日常時の使われ方や維持管理、イベント利用時の運営方法等について検証・フィードバックを重ね、案を具体化していきます。

あかりのキーワード

目的地になる見晴らしデッキの創出

[城見庭園の夜間景観イメージ]



○地元市民・事業者の声

○令和2年7月豪雨災害後のカヌー艇庫やコミュニティ施設の整備に向けた動き

令和2年7月	豪雨災害の発生 球磨川トレセン（カヌー艇庫、県立高校部室）被災
令和3年1月	高校カヌー部の仮設部室を城見庭園内に設置（熊本県教育委員会）
令和3年5月	市から熊本県教育委員会に対し、球磨川トレセン復旧の要望
令和3年8月	城見庭園内にカヌー艇庫を整備することを決定（東校区町内会長へ説明）。また、カヌー艇庫整備に併せ、市で一時避難場所としても活用可能なコミュニティ施設等建設の検討を開始
令和3年9月	市議会全員協議会において、今後の利活用の方向性を報告
令和4年8月	人吉市行政経営会議において、今後の利活用の方向性を報告
令和5年2月	東校区市政懇談会において、今後の利活用に係る意見交換を実施 当初の整備方針に変わりがない旨、市が説明
令和5年7月	東校区定例会でのカヌー艇庫に関する説明
令和5年8月	カヌー艇庫住民説明会
令和5年9月	カヌー艇庫工事着工
令和5年11月	東校区市政懇談会において、今後の利活用に係る意見交換を実施
令和6年2月	全市民を対象とした、利活用検討ワークショップの開催
令和6年3月	カヌー艇庫工事完了（仮設部室撤去）→供用開始
令和6年10月	東校区町内会長に対し、コミュニティ施設を建設しない新たな利活用方針案を市から説明

○HASSENBA

- ・HASSENBAは球磨川くだりに乗る人でないと来てはいけないというイメージがある。おばあちゃんと乗ったなどで乗ったことのある中高生が多い。地域の人にとって足を運んでもらえる地域づくりをしていく必要がある。
- ・HASSENBAの前だけ人工物が何も無い。人吉の四季を一番感じられる。
- ・HASSENBAの周辺は開発すべき。まちなかより浸かりにくい。リノベしていけるとよい。コンテナ系で作る飲食街もいいのではないかなと思う。
- ・梅花の渡しくらいで、1時間くらいで焼酎を飲み交わす。おつまみも準備して、夕食の前にやる。季節のよいときに。冬もこたつ付きでやる。貸し切りプランがよいかもしれない。
- ・川沿いで川を見ながら食事をゆっくりできるところがほしい。HASSENBA2階のバーがよい。

城見庭園の現況



利活用の将来像

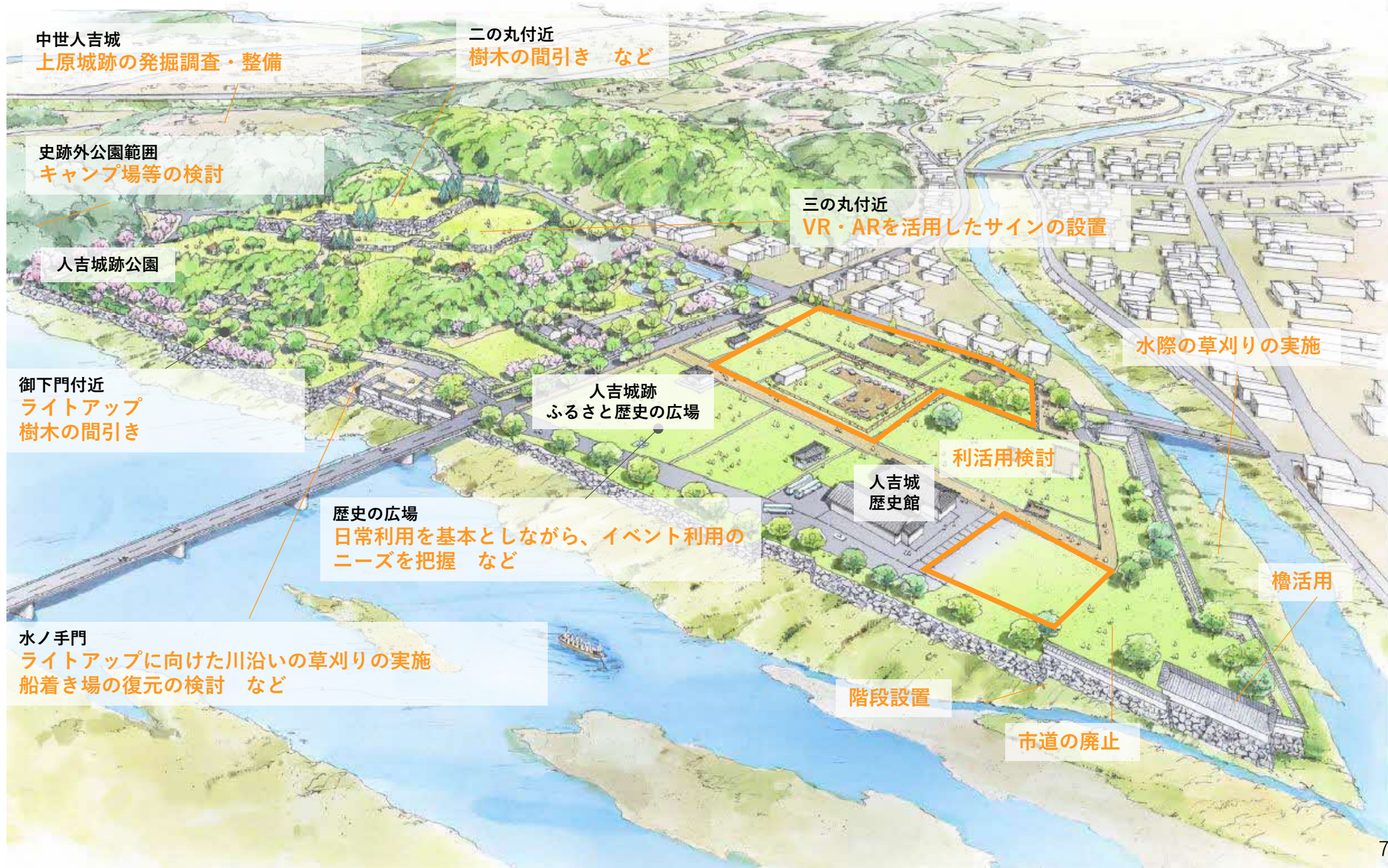


[令和5年11月16日 東校区定例会 人吉市資料]

- ・歴史的雰囲気とより深い歴史文化が体感でき、球磨川兩岸をつなぐ市内への回遊性を高める地域となることを目指します

- ・「人吉城歴史館」が結節点となり、観光客と市民をつなぐ役割を果たすような取り組みを進めます。

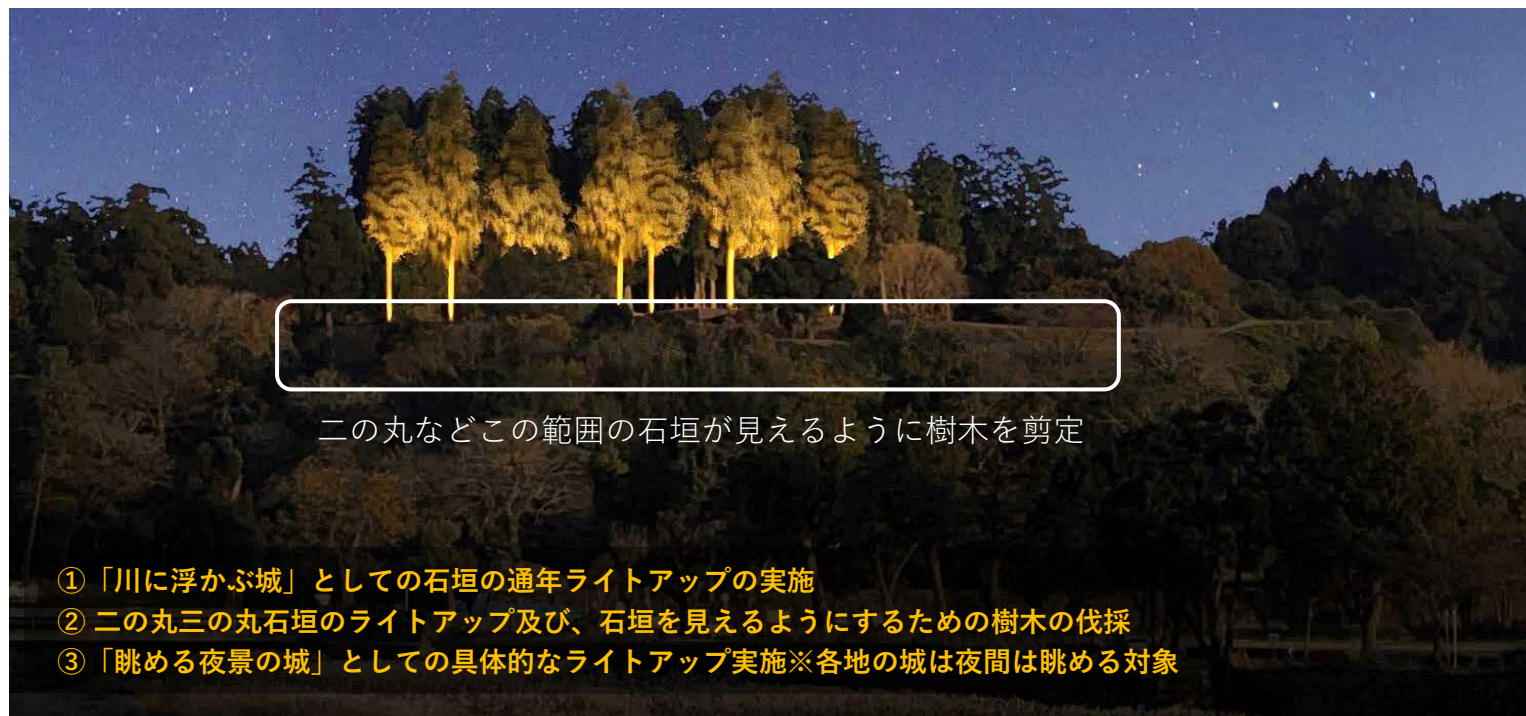
[人吉城跡イメージ]



あかりのキーワード

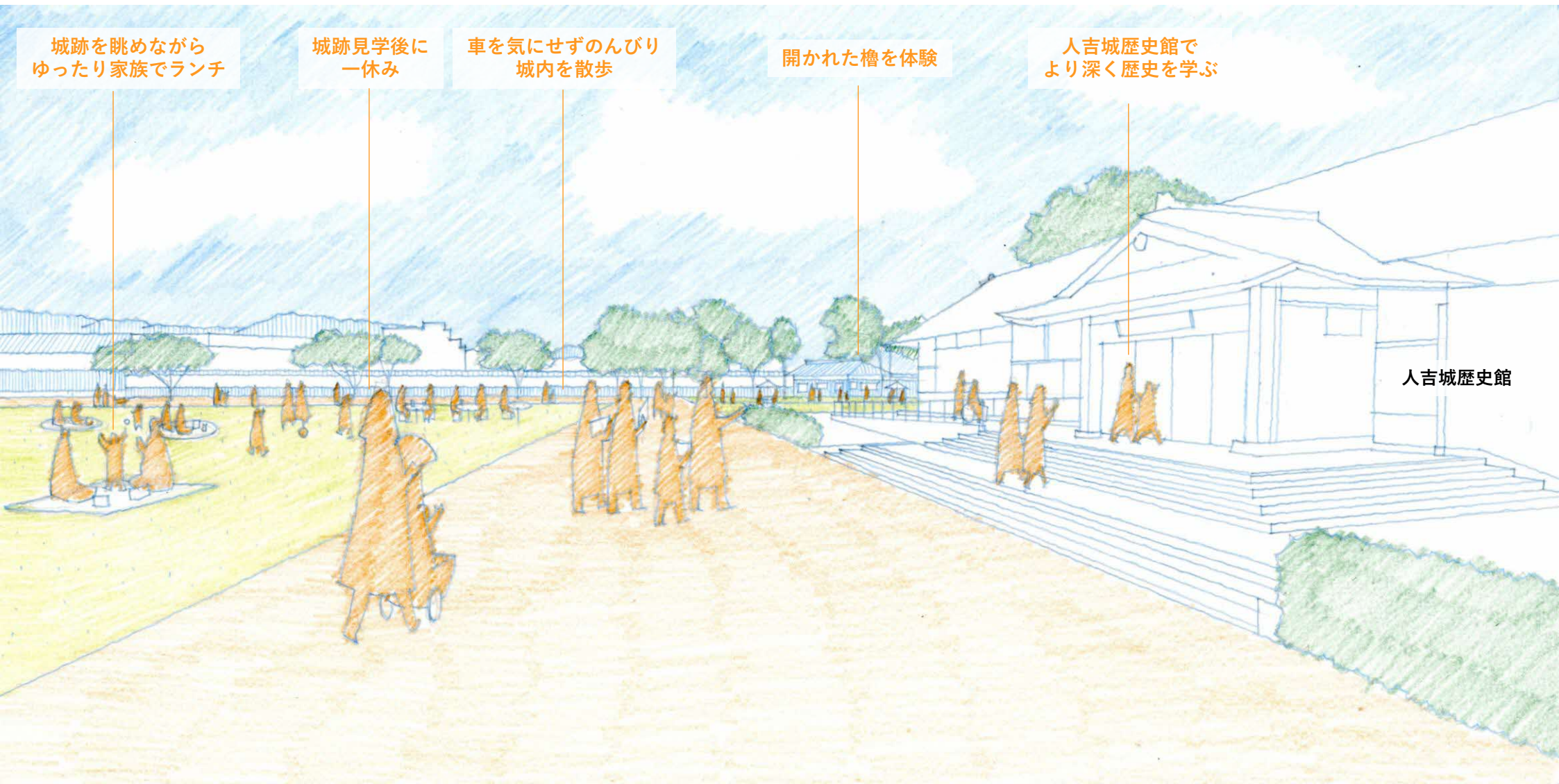
人吉城跡は夜景を眺められる城へと進化

[人吉城跡の夜間景観イメージ]



※夜間に城跡内を歩くのではなく、対岸や中川原公園側より眺めて美しく見えるようにライトアップ等を構成

[人吉城跡シーンイメージ]



○人吉城跡の回遊性向上に向けた環境づくりについて



【基本的な考え方】

- ・人吉城跡の象徴性を高めるため、近世城郭として機能していた時期の植生の再現を基本としながら、一部では自然の経年変化を容認して、城跡にふさわしい雰囲気醸成を図る事を目指していく。
- ・球磨川対岸などを含めた周辺地域から曲輪への視認性、さらに城内の視点場から市街地や球磨川への視認性といった眺望を確保する。
- ・公園としての利用や観光利用を踏まえ、快適性や利便性、景観にも配慮するものとする。



城跡の雰囲気作りの視点で伐採や剪定を行っていく対象となる樹木の例

【修景及び植栽の視点】

今後樹木管理を行っていく上で、伐採や剪定などの対象となる樹木を選ぶ視点については、安全確保の観点を第一に考えながら、城跡の象徴性を演出していくことが求められる。以下にその視点を示す。

(i) 象徴性の演出

当時の植栽に沿った樹木の折損、枯損、腐朽などに際しては、同種の樹木で補填し、史跡の本質的価値を損なう樹種が同様の状況に至った場合は、剪定や伐採、当時の植栽への転換等を状況に応じて実施する。ただし、安全面・管理面を考慮する必要がある場合は、景観を損なうことが無いよう十分配慮したうえで、在来種による植栽を実施するものとする。

(ii) 見通しの確保

城跡の雰囲気づくりにおいては、石垣や曲輪、市街地などへの見通しを妨げる要因となっている樹木や城跡を印象づける入口部分の景観を阻害していると考えられる樹木、城跡のイメージに調和していない外来種などの樹木、その他城跡の景観を阻害していると考えられる樹木について、計画的に樹木の整理を行う。

(iii) 安全確保

安全確保の観点としては、来訪者の視線を遮り、見通しが悪い要因となっている樹木や安全な歩行を妨げている樹木、さらに、病気害虫などにより枯れており再生が困難な樹木や倒木の恐れがある樹木については速やかに除去するものとする。

■三の丸から中川原方面への見え方（現状）

北西方向を望む

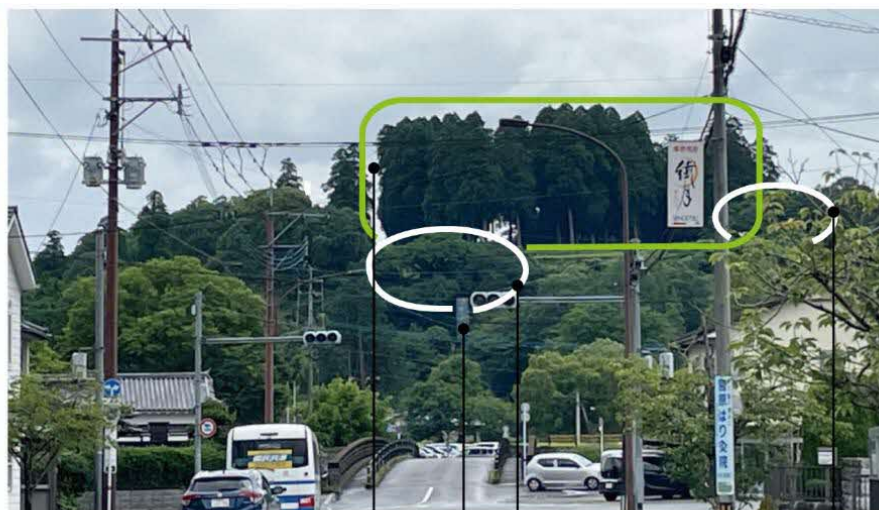


■三の丸から新町方面への見え方（現状）

西方向を望む



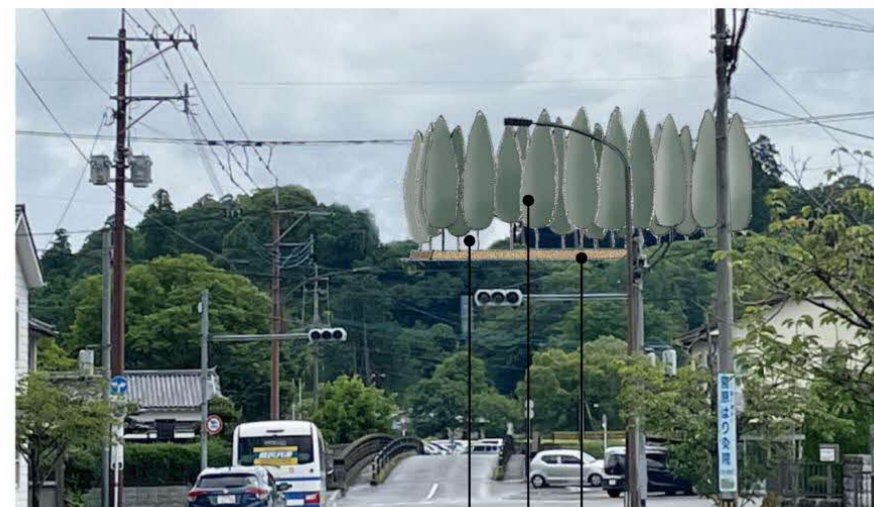
■新町からの見通し確保に向けたシミュレーション



ヒノキ林の整理

- ・間伐：樹間の確保
- ・枝打ち：明るい林床

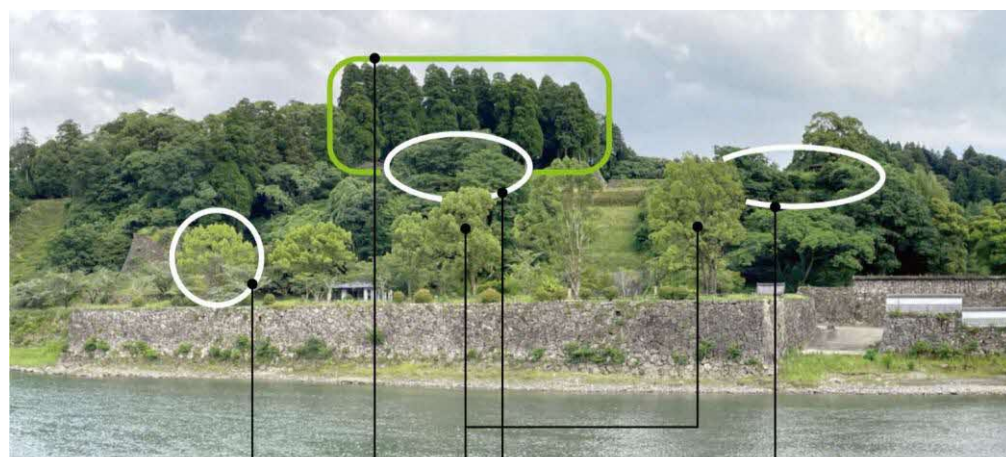
忠霊塔

広葉樹の間引き
(二の丸石垣東端部)広葉樹の間引き
(忠霊塔東斜面地)

枝下の見通し確保

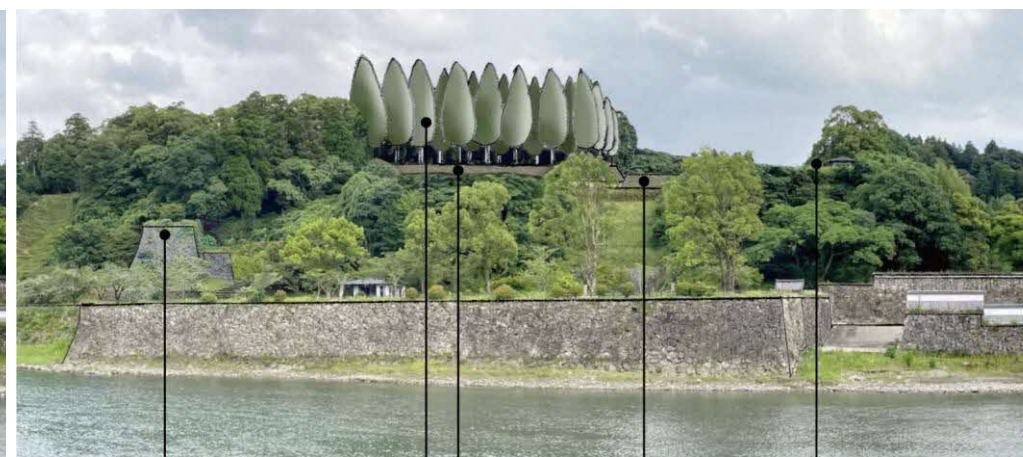
二の丸の遺構の 象徴化
二の丸石垣の保護

■HASSENBA・城見庭園からの見通し確保に向けたシミュレーション

クスの間引き
(球磨川沿い平坦地)

ヒノキ林の整理

- ・間伐：樹間の確保
- ・枝打ち：明るい林床

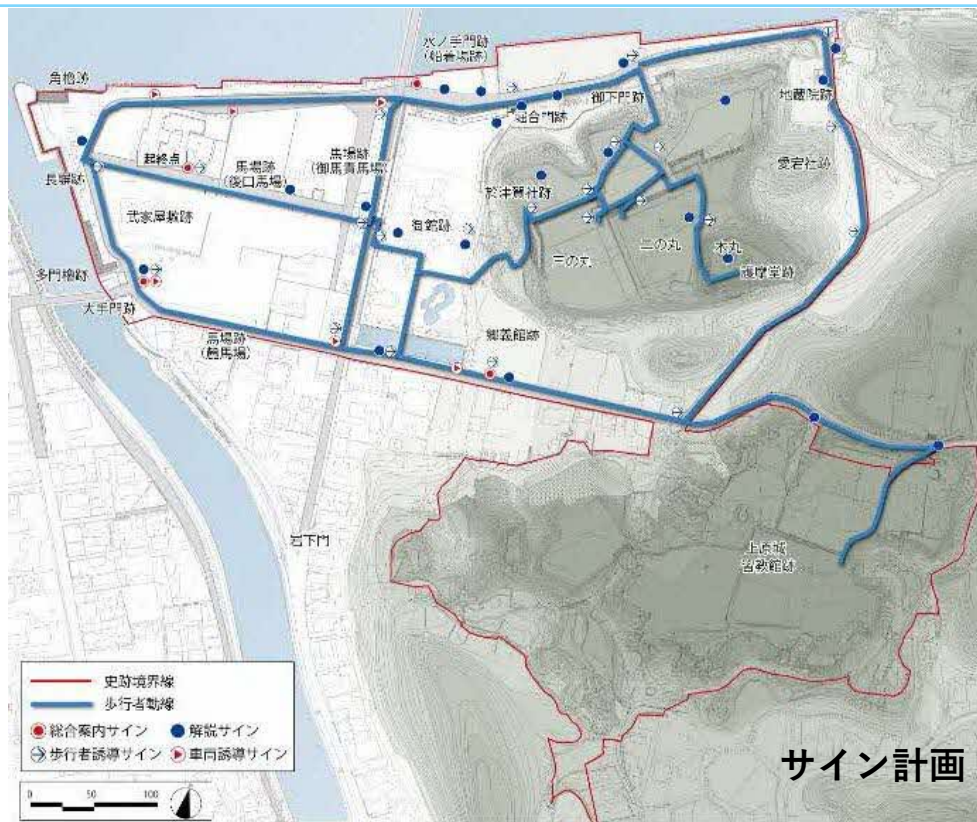
広葉樹の間引き
(御下門南斜面地)広葉樹の間引き
(堀合門南斜面地)クスノキ群の定期的剪定
・剪定：樹高の管理御下門石垣の
保護

二の丸の遺構の保護

三の丸石垣の保護

二の丸石垣の保護

展望所の保護



サイン計画

【サイン配置の基本的な考え方】

- ・訪日外国人を含めた多様な来訪者にわかりやすく、快適に城跡を散策できる情報提供や施設整備を行う。また、遺構復元が困難な場合は、サインによる復元イメージ等の必要な情報を的確に提供する。
- ・サインを段階的に更新する際のデザインは「人吉グランドデザイン」に準拠しながら、城跡の景観に調和し、目立ちすぎず効果的な案内や誘導を促すために、統一かつシンプルなものを基本とする。
- ・サインは、城跡の視点場や遺構周辺等において、眺望の妨げにならない位置に配置を行う。

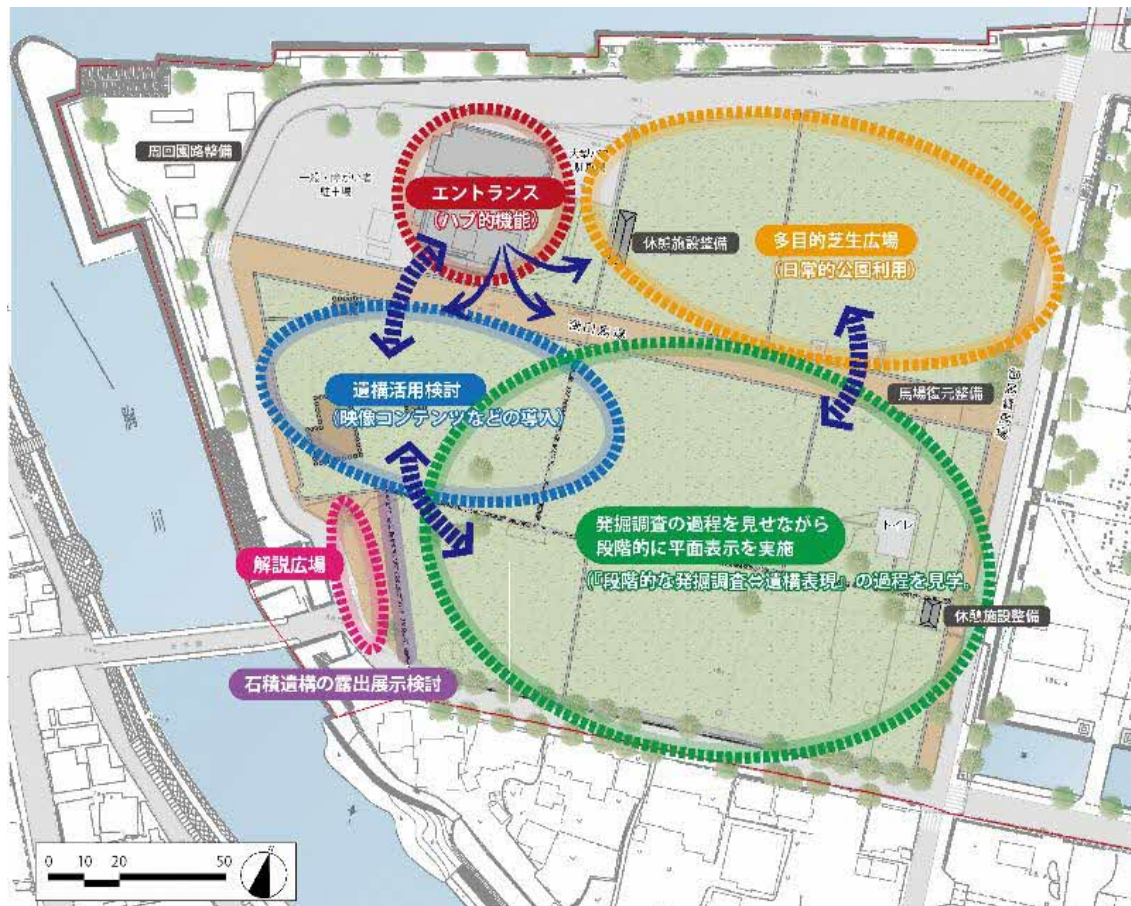
種類／来訪者の行動パターン	用途	配置の考え方
a. 車両誘導サイン (名称サインも兼ねる)	・車両や歩行者が本史跡に到着した際に目に留まるように視認性の高いものを設置する。また、駐車場への案内を促す。	・史跡地内に入る結節点や駐車場の周辺に設置する。
b. 総合案内サイン	・全体エリアマップと見所、関連施設などについて、位置やルートを案内するために設置する。	・人吉城歴史館の周辺など、来訪者の行動の起終点となる箇所などに配置する。
c. 歩行者誘導サイン	・来訪者が目的地までわかりやすく移動できるようにするために設置する。	・出入口部や動線の分岐点などに設置する。
d. 解説サイン	・来訪者到人吉城跡の価値や特徴等を解説するために設置する。	・人吉城跡の価値を来訪者に伝えるために解説が求められる遺構の周辺などに設置する。

【駐車場配置の基本的な考え方】

- ・分散した駐車場は、暫定的に来訪者の活動の起点となる人吉城歴史館の西側に集約することを基本とする。
- ・既存駐車場の段差を解消し、駐車場として一体的な利用ができるようにする。
- ・駐車場は、将来的には史跡範囲外に確保し、配置・規模等を検討する。
- ・合わせて、人吉城内線の歩行者専用化を検討する。
- ・周囲のみどりに調和するように駐車場の緑化を検討する。
- ・バリアフリーの観点から身障者向けの駐車場は、人吉城歴史館側に配置する。



車両動線計画



歴史館周辺将来イメージゾーニング図



[他都市参考事例]

あなたも佐賀城本丸ボランティアの仲間になりませんか？

佐賀城本丸ボランティア 新規会員募集



佐賀県立佐賀城本丸歴史館は、弘治第10代津久井親貞公が天保9(1838)年に建てた本丸御膳の一部を復元したものです。近世城郭の本丸御膳の復元としては日本初のもので、歴館以来、内外を法式的な形外からも多くのボランティアにお越しいただいています。

佐賀城本丸歴史館では歴史の学習とともに活動するボランティアを募集しており、その一環として、ボランティアスタッフの登録による展示解説などのガイド活動を実施しています。現在は30代から80代までの約60名が活躍しています。

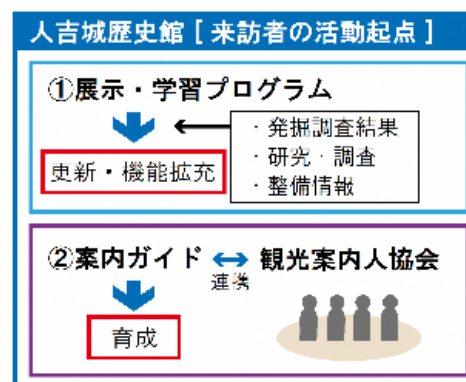
2024年に開設20周年を迎えた佐賀城本丸歴史館、歴史の楽しみ方にご協力ください。私たちと一緒に歴史の魅力を伝えていきましょう。

新築館についてはお断りします。
ボランティアへの参加は希望される方、申込用紙でお申し込みください。

【運営体制（案）】

ガイダンス施設である人吉城歴史館は、人吉城跡における来訪者の活動の起点として、展示物や映像、地下遺構などから城跡の歴史や特徴を学び、理解できる機能を有している。

今後展示・学習プログラムは、現在実施している発掘調査結果や調査・研究、整備情報などの状況に応じて、適宜内容の更新や機能拡充を行い、施設の充実を図る。また、今後は小学校における総合学習などへの対応も視野に入れ、学校と連携した学習プログラムを検討する。案内ガイドは、観光案内人協会との連携を強化しつつ、人吉城跡を総合的に案内できるガイドの育成等にも取り組むことを検討していく。



○地元市民・事業者の声

○城跡全体に関すること

- ・散歩行く人はお城を目指していく。お城まで行けば大体一周する。お城に登る人もいる。
- ・お城の特徴をどう活かすか。上まではあまり行かない。行ってもなにもないでは困るから、整備しなくてはいけない。
- ・人吉城を中心に城下町の雰囲気。広場と城の間の花壇はいらない、歩きにくい。道路も曲がっている。車を止めやすいように。歩きやすいように。カフェとかお土産屋はいらない。昔に戻していったほうがよい。
- ・大手門復活したい。鹿児島城に大きい門を民間主導で作っている。
- ・城跡のルートマップを作って欲しい。
- ・散策コースがわかりやすいように表示してほしい。
- ・周遊コースが城の入り口等を書いてあれば歩きやすいと思った。
- ・球磨川沿いにコーヒョップを開いてみてはどうか。
- ・ARやVRを色々なところに設置して欲しい。QRコードでの説明でもいい。

○史跡の説明板・サインに関すること

- ・多門櫓の説明がわかりづらい。やぐらに上ってよいかわからない。
- ・於津賀社跡や碑の修復が必要。
- ・左近の石のミステリーをPRしてはどうか。
- ・林正盛と高橋政重顕彰碑の案内板を設置してほしい。
- ・ユーカリの樹（一井正典寄樹）は、看板やQRコード等で説明があればよい。
- ・英字の説明板がない。
- ・三の丸に西南戦争についての説明板を取り付けてほしい。
- ・御下門跡は御下門をVRでみれたらよい。今の看板は見づらい。
- ・相良神社から三の丸への看板が小さくて見づらい。
- ・解説板が汚れていたり、破損して読めないのはもったいない。
- ・人吉城歴史館の場所や自動車の駐車場入口がわかりづらい。サイン整備をしてほしい。

○樹木に関すること

- ・緑の多い西日本のラピュタ城と呼ばれており、他の城と差別化する意味でも、樹齢の長い樹木も簡単に切らないでいただきたい。
- ・植栽計画をきちんとしてほしい。
- ・本丸の南側の樹木を伐採して中世城跡がみえるようにしてほしい。
- ・大手橋や水の手橋から城をみると、木々が鬱蒼としており荒れている印象を感じる。城跡がみえるように木を切してほしい。

○調査・整備に関すること

- ・中世城郭をもっと整備してほしい。
- ・二の丸の発掘調査を進めてほしい。
- ・本丸の調査をしてほしい。
- ・三の丸の井戸をわかるように整備してほしい（井戸周辺のつつじをなくしてもよい）。
- ・東屋がほしい（人吉城歴史館の隣）
- ・木のイスが朽ちているので改善が必要。
- ・二の丸の排水溝にグレーチングを設置してほしい。

○参考イメージ

[既存の解説板・誘導サイン]



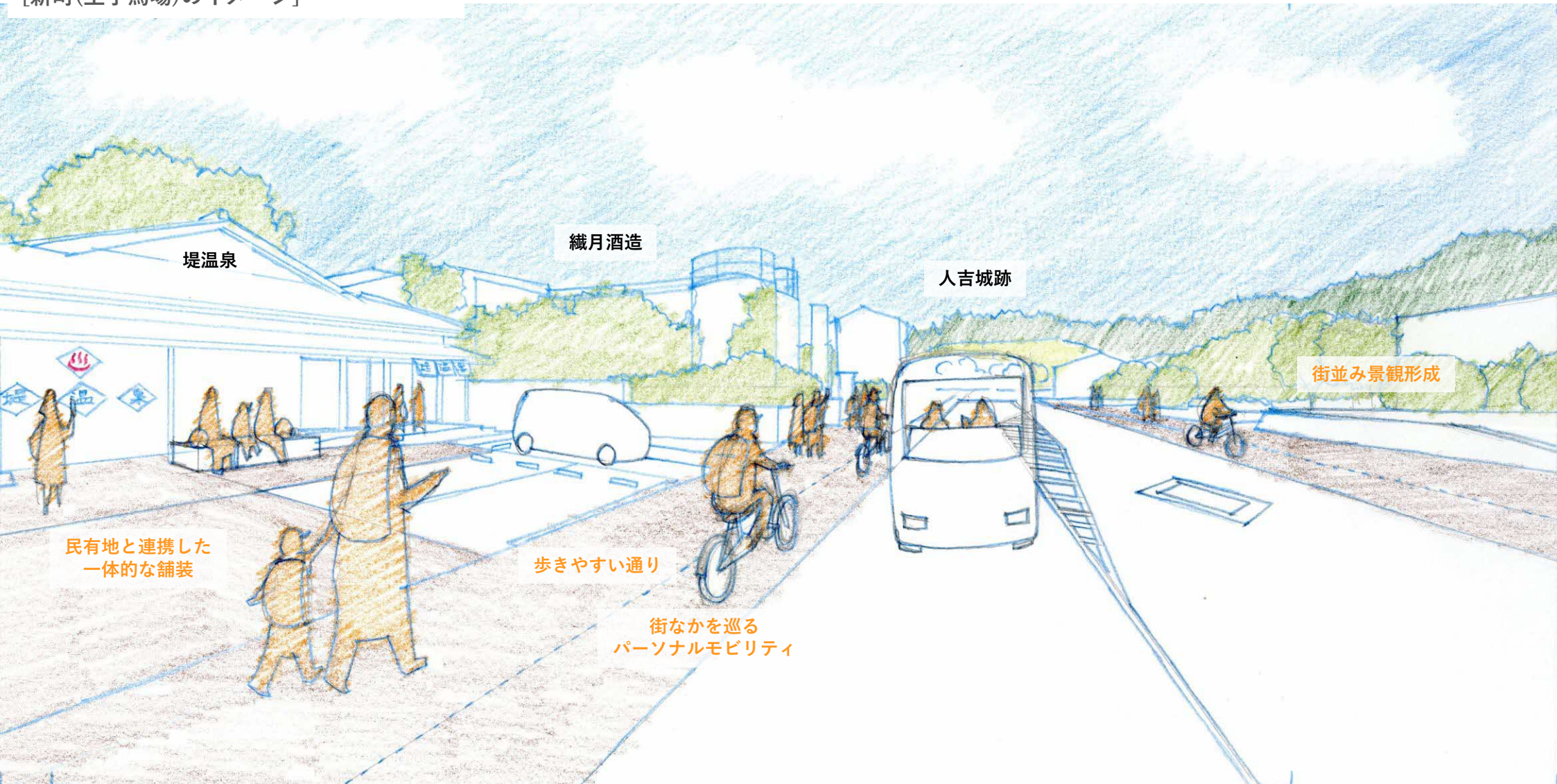
[城跡全体で統一感のあるサイン・説明板への改変]



- ・城跡へのメインストリートである通りの歩行空間や照明を改良し、生活者が歩きやすくまちあるきが楽しい通りとします。

- ・「球磨川左岸の観光まちあるきの拠点」と位置づけ、観光客も移動しやすい通りを創出します。

[新町(土手馬場)のイメージ]



あかりのキーワード

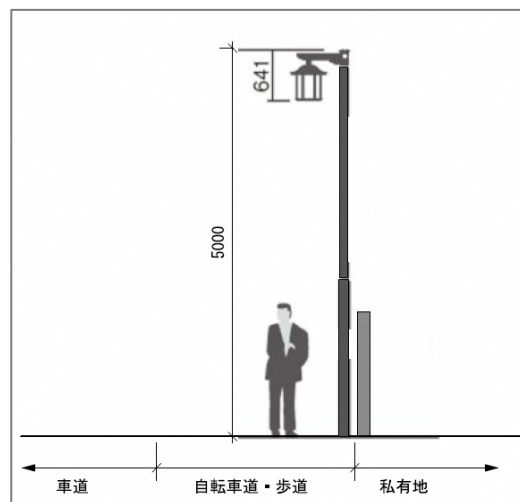
暗がりを払しょくし安全・安心を確保

[新町の夜間景観イメージ]

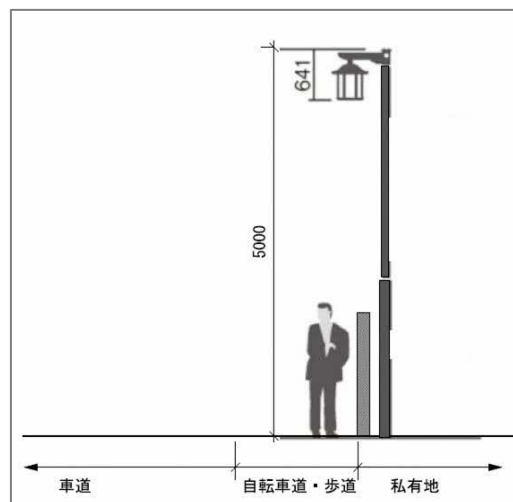


①青井阿蘇神社から人吉城跡をつなぐ主要な回遊ルートとして暗がりを払しょくし、夜間の安全・安心の確保

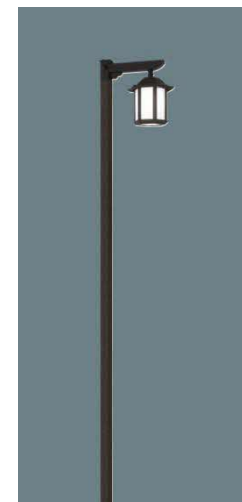
◆通りを表す街路灯を設置するために、歩車道と民間敷地に関して整理が必要



・歩道に十分な広さがある場合



・歩道が狭く、照明ポールが立てられない場合
→民間敷地への設置を検討



車道とされる場合
H:5000の標準製品を想定



歩道にできる場合
H:2000オリジナル加工照明も可能

○地元市民・事業者の声

- ・大手門の通りは、土手馬場と呼ばれていた。昔は桜があった。
- ・土手馬場の歩道が歩きにくい。車椅子では通れない。
- ・夜間照明は、観光客用のみでなく、生活者と観光客両方に向けて設置するのがよい。生活者は安全が大事。老神神社と永国寺がライトアップされて安全になった。以前は怖くてお参りする人もいなかった。
- ・この地域は古いものがあって散策に向いている。通りをよくしたり、歩きやすくしたり、景観を守ったり、夜間の電飾をつけたりしたい。
また、大規模な病院があり、通院の方も多い。入院されている方が、病院職員と一緒に散歩されている姿も見かけ、地域住民も高齢の人が多。散策しやすい通路を設けることは、観光客、地域住民の双方にメリットがあること。
- ・老神神社は城の真西になり、朝日が上がる時期に老神神社から人吉城を見る。
- ・永国寺で幽霊祭りを行っている。保育園は週末に開放されている。周辺で子供を週末に遊ばせるところがなく、鹿児島や宮崎までいく人が多い。
- ・人吉城大手門復活を起爆材とした武家屋敷界隈の復活をしたい。
- ・新町デザインプロジェクトで、景観形成地区のガイドラインを作り、歴史のまちを伸ばしていこうというとしている。みんなが個々で景観を守っている状況。医療センターの色は協議して変えてもらった。
- ・夜間照明をつけることについても取り組みたい。



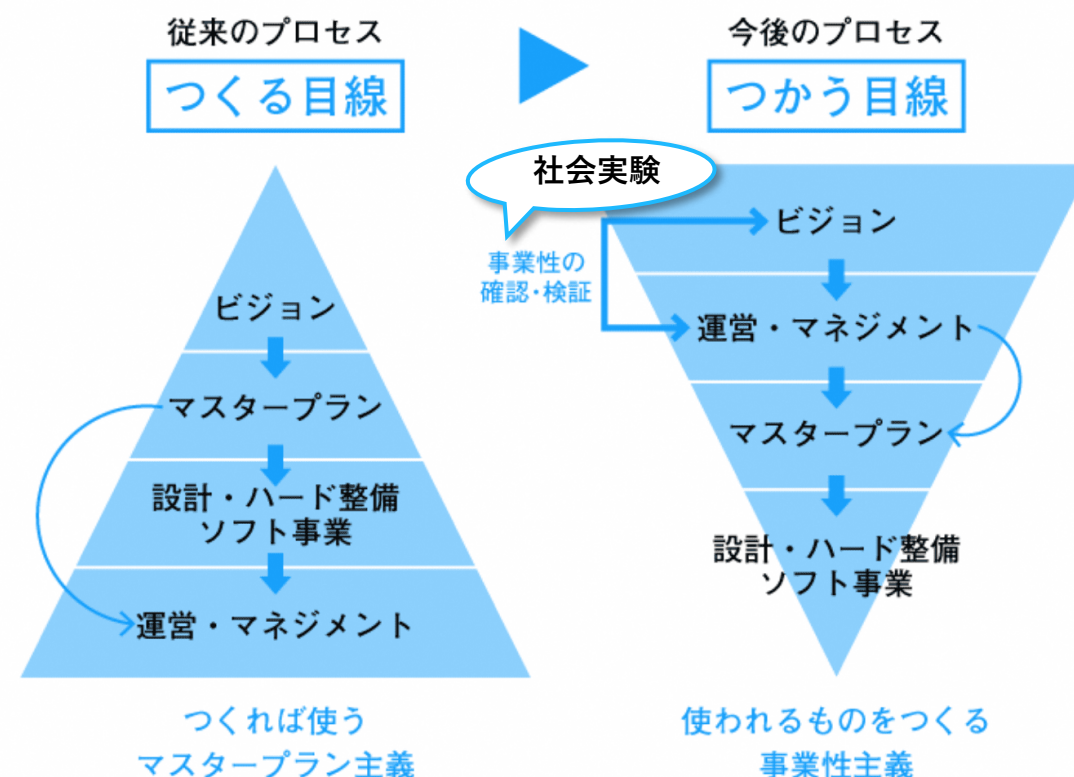
第4章 アクションプランの 実現に向けて

「つかう目線」を先行させる進め方

社会実験を活用して、将来の「つかう」主体の方々と当初から進めていくのが、今回のアクションプランの大きな特徴です。

左図：従来のプロセスは、「つくる」側の行政や開発者がビジョンづくりからハード整備を行い、その後に事業者や居住者が運営するのが主流でした。人口が拡大しハードをつくれば使う人がいた時代の手法です。しかし現在では、使われない、管理不能な施設や場所が増え、これではうまく進みません。

右図：エリア価値を将来にわたり維持向上するには、事業や活動を行う「つかう」側の運営主体の役割が重要です。その主体がビジョンづくりや社会実験の検証に当初から関わることで、官民でビジョンの共有ができ、社会実験の検証により事業性や地域のコンセンサスを確認したものを実現できます。



社会実験を活用して、将来の継続事業・活動や空間デザインに反映する

社会実験とは、小さく期間限定で、アクションプランの目指す将来像を事前に皆で体験し、そこで得た知見や世間の評価から、地域のコンセンサスづくりや今後の投資・活動主体の参画につなげていく、地域の新たな関係性や共感をつくる手法です。

生活者自ら、こんな日常の暮らしがあるといいなという想いを再確認する機会、事業者としてはファンを増やし稼ぐ

事業として継続できるかを試す機会でもあります。机上の企画書では伝わらない、現場の臨場感や将来の夢を共通体験できる場です。

この検証結果をもとに、地域の個性や魅力を活かした事業・活動の主体や内容、河川・公園・道路などの公共空間の豊かな使い方や空間デザイン、交通計画、制度設計などに活かしていきます。



まちづくり・社会実験へのさまざまな関わり方

復興まちづくりや次年度以降の社会実験には、さまざまな関わり方があります。例えば、**自ら社会実験を企画・運営する、まずは社会実験に来場して楽しむ、まちなかを普段使いして散歩したりくつろいだりする、まちの情報をSNSなどで自ら発信する、**などです。

どんな関わり方でも結構ですので、ぜひ多くの方に関わり、この取組みを通じてまちなかのお気に入りを見つけたり、自らまちを使いこなしてほしいです。まちを楽しむ人たちが集まっていますので、ご興味ある方、ご参加したい方はぜひご連絡ください！

自らの
アイデアを
実現したい！



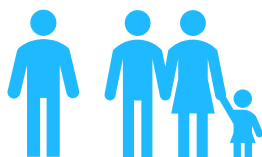
—— 社会実験を
企画・運営する
(担い手)

社会実験を
楽しみたい！



—— 社会実験に参加する
(来場者)

まちなかで
くつろぎたい！



—— 人吉のまちなかに
訪れて楽しむ

まちの
情報発信を
したい！



—— まちづくりの動き
をSNSで発信する

復興まちづくりや社会実験に
参加されたい方への募集情報、
開催情報は、公式note／X／
Instagramにて随時ご覧いた
だけます。

リンク
まとめ
ページ



例えば中川原公園エリアでは、以下のように3～4年の期間をかけて社会実験により検証を重ね、空間デザインや運営方法等に活かしていきます。

中川原公園・河川沿いの社会実験のプロセス(案)

復旧期

令和6年 (2024)

- 豪雨被害により立入禁止 → 最低限の災害復旧工事の実施
- 将来イメージが持ちにくい → かわまちづくり計画 & アクションプラン素案をたたき台にして議論
- 使い方や担い手が不明 → 次年度社会実験の担い手・アイディアを募る

社会実験期 (仮説の構築)

令和7年 (2025)

- 河川を使う人がいない → 手を挙げた担い手を使いこなしている状況をつくる
- どんな使い方・景色ができるかわからない → 日常時 & 非日常時の楽しみ方を試す
- 回遊のイメージがわからない → 回遊のハブとして様々な過ごし方を感じられる状況に

令和8年 (2026)

- 利用ルールがわかりにくい、コンセンサスがとれていない → 河川利用ルールを作成
- どのようなハードが求められているのかわからない → 検証結果より提案
- 目指すべき将来像が定まっていない → 中川原公園周辺エリアビジョンのとりまとめ

実践期 (運営・ハード実現化)

令和9年 (2027)

- 持続する運営体制の構築 → 運営準備組織の組成・運営、河川利用ルールの改善
- 利活用に必要なハードの設計

令和10年 (2028)

- 運営組織の位置づけ（官民役割分担／公募など）
- ハード整備

自立 運営期

将来

- 中川原公園 & 対岸（河川＋公園＋道路）における民間運営の仕組みの自走

○社会実験の目的

- ・社会実験は、主体となる事業者をイメージし、以下を目的として実施することが重要です。

①事業性の検証	検証項目（仮説）を設定し、常設化・定常化に向けて運営面・収支面などの事業性を判断する。
②ハード整備内容の検証	ハード整備を伴う事業については、社会実験での活用結果を踏まえて、民間の活用主体の意見を取り入れながら各種設計に反映する。
③コンセンサス醸成	ビジョンで描いたシーンを実際にかたちにして共通体験を得ることで、エリア内外の人たちに共感してもらい、ビジョン実現へのコンセンサス醸成に繋げていく。
④最適な制度設計の検討	既存の各種法制度やルールでは突破できない壁について、実験と検証を通じてより望ましいルールの在り方を提案する。
⑤運営体制・ルールの試行	公共空間の運営や安全確保のためのタイムラインなどの運営主体やルールを検証する。

○検証方法

a：滞留行動調査 滞留行動の種類、滞留の姿勢、1人あたりの滞留時間、性別、年齢等の項目を調査し、分析を行う。	b：利用者アンケート調査 利用者の満足度や意向についてアンケート及びヒアリングを行う。
c：事業者／出店者ヒアリング調査 運営や収益などに関するヒアリングを行い、改善点を把握し対応を検討する。	d：地域住民ヒアリング調査 各社会実験に関して良かった点や懸念点などをヒアリングする。

○社会実験の実施を想定するエリア・テーマ

青井阿蘇神社 + 球磨川	中川原公園 + 大橋	胸川
交流・文化の場 (うぐいす温泉周辺)	山田川 区画整理	鍛冶屋町通り
人吉駅前 + SL	城見庭園 + HASSENBA	人吉城跡 周辺
新町	エリア・テーマ	エリア・テーマ
エリア・テーマ	エリア・テーマ	エリア・テーマ

復興まちづくりの全体スケジュールとして、まずは“ワクワクする将来の暮らしのアイディア集”としてのアクションプランを令和6年度にとりまとめ、令和7年度からその暮らしのイメージとハード整備後の運営主体・方法・財源等を想定しながら社会実験を進め、民間投資・活動と連動したハード整備と事業化を目指していきます。

